

# 2022 SYLLABUS

## 通信教育部

### 北海道情報大学

#### 【 教職関係科目：目次 】

情報科教育法Ⅰ.....	224
情報科教育法Ⅱ.....	226
商業科教育法Ⅰ.....	228
商業科教育法Ⅱ.....	231
数学科教育法Ⅰ.....	234
数学科教育法Ⅱ.....	236
数学科教育法Ⅲ.....	238
数学科教育法Ⅳ.....	240
数学科教育法Ⅴ.....	242
教育原理.....	244
教職概論.....	246
教育制度論.....	248
教育社会学.....	250
教育心理学.....	252
特別支援教育論.....	254
教育課程論.....	256
道德教育の理論と実践.....	258
教育方法論と総合的な学習の時間の指導法.....	260
特別活動論.....	262
生徒指導.....	264
学校教育相談.....	266
進路指導.....	268
教育実習Ⅰ.....	270
教育実習Ⅱ.....	273
教育実習Ⅲ.....	275
教職実践演習(中・高).....	277
教育の方法と技術.....	279

# 情報科教育法 I

ナンバリング 2 単位

DTP276



担当教員： 奥村 稔

専 門

情報教育、数学教育

出身校等

北海道教育大学大学院教育学教育学研究科教科教育専攻数学教育専修 修士

現 職

北海道情報大学 非常勤講師

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業
<b>授業範囲</b>	教科書及び学習用プリントの内容すべて
<b>試験期間</b>	シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2022 科目試験時間割」を参照
<b>試験範囲</b>	授業範囲すべて (持ち込み許可物) 一切自由
<b>科目の概要</b>	<p>学習指導要領が改定され、2018 年(平成 30 年)に公示された。</p> <p>共通教科情報科の科目として、これまでの「社会と情報」と「情報の科学」が再編されて、必修科目として「情報 I」が、その後の選択履修科目として「情報 II」が設けられた。また、専門教科情報科の科目としては、これまでの 13 科目が整理統合、名称変更、そして新設によって 12 科目となった。</p> <p>高等学校における新学習指導要領は、2022 年度から年次進行で実施される。したがって、2021 年度は改定前の学習指導要領で授業が行われることになるので、本講座の受講生は、改定された新しい学習指導要領に対応しなければならない。教科書は 2021 年度に採択されて 2022 年度に供給されるので、現時点では教科書を参照することもできない段階である。</p> <p>情報科教育法 I では、新学習指導要領について可能な限り深い理解を進めて、特に、共通教科情報の学習活動をデザインし、具体的な授業での活動への落とし込むための準備を行う。</p>
<b>科目における学修の到達目標</b>	<p>本講では、現段階で参考にできる「学習指導要領」とそれを詳細に解説した「学習指導要領解説」、そして具体的な学習活動や留意事項、教員の今後に向けての研修指針を示した「教員研修資料」を用いて、指導の内容と取扱いについて理解を進める。</p> <p>必修科目の「情報 I」について基本的な内容について把握し、選択履修科目の「情報 II」での応用的な内容にも対応できるように目指す。</p>
<b>講義の方針・計画</b>	第 1 部 情報科の誕生とその変遷 第 1 回 共通教科情報科の概要 第 2 回 情報教育の変遷 第 3 回 共通教科情報科 第 4 回 学習指導要領総説 第 2 部 情報 I 第 5 回 目標 第 6 回 (1) 情報社会の問題解決 第 7 回 (2) コミュニケーションと情報デザイン 第 8 回 (3) コンピュータとプログラミング 第 9 回 (4) 情報通信ネットワークとデータの活用 第 3 部 情報 II 第 10 回 目標 第 11 回 (1) 情報社会の進展と情報技術 第 12 回 (2) コミュニケーションとコンテンツ 第 13 回 (3) 情報とデータサイエンス 第 14 回 (4) 情報システムとプログラミング 第 15 回 (5) 情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究
<b>準備学習(予習・復習)</b>	<p>教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進める。</p> <p>理解できない用語や内容は、参考文献にあたりたり Web 検索をしたりすることが準備として必要である。また、教科書や学習用プリントの内容を具体的なイメージにするためには、参考書を用いて学習をさらに深める必要がある。</p> <p>以上のことから、授業範囲の内容の他に、教科書の内容全体を 2 単位で 90 時間かけて学習することを目安とする。</p>

<b>成績評価の方法およびその基準</b>
次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 試験：100%
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b>
印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。
<b>教科書</b>
書 名：高等学校学習指導要領解説 情報編（平成 30 年 7 月）（初版） 著者名：文部科学省 発行所：開隆堂出版株式会社 ISBN：9784304021633
<b>参考書・参考 Web サイト</b>
高等学校情報科「情報Ⅰ」教員研修用教材（本編） <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416756.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416756.htm</a> 高等学校情報科「情報Ⅱ」教員研修用教材（本編） <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00742.html">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00742.html</a>
<b>関連授業科目</b>
特に専門教科情報科では、免許法で定める「教科に関する科目」の内容に強く関連している。受講者はすでにそれらの内容については概ね理解できているものとして、本講では詳細に扱っていない。理解できていない、あるいは、これまでに学習していない場合には、その内容を独学しながら受講する必要がある。
<b>その他</b>
なし
<b>担当教員の実務経験</b>
パーソナルコンピュータの普及に伴い学校教育での活用を、インターネットが初等中等教育で利用され始めた頃より学習環境としての活用を模索し実践してきた。改定前の学習指導要領に関わり、教科書の執筆も行ってきた。2003 年度に高等学校情報科が新設されてから、北海道の高等学校における情報科担当教員による研究会にも関わりを続けてきた。現在勤務する通信制の学校では、北海道各地の高校に遠隔授業を配信するという取り組みに携わっている。最近では、機械学習をテーマにしたプログラミングについて学んでいる。これらの経験をもとに、情報科教員としての基本的な視点を伝えられるように努めていきたい。

# 情報科教育法 II

ナンバリング 2 単位

DTP277



担当教員： 奥村 稔

専 門

情報教育、数学教育

出身校等

北海道教育大学大学院教育学教育学研究科教科教育専攻数学教育専修 修士

現 職

北海道情報大学 非常勤講師

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業
<b>授業範囲</b>	教科書及び学習用プリントの内容すべて
<b>試験期間</b>	シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2022 科目試験時間割」を参照
<b>試験範囲</b>	授業範囲すべて (持ち込み許可物) 一切自由
<b>科目の概要</b>	<p>情報科教育法 I では、共通教科情報科の理解を進めて、それを授業として具体的な学習活動をデザインするための準備を行ってきた。</p> <p>情報科教育法 II では、そのような授業を指導計画として構成するために配慮しなければならない事項や、学習内容に沿った学習活動や学習評価が、実際にはどのようにあるべきかを掘り下げていく。</p> <p>また、小学生の段階から触れることになるプログラミングについて、少しの知識で本質的な理解に至ることを目指して編集したコースについても紹介する。</p>
<b>科目における学修の到達目標</b>	<p>本講では、学習内容に相応しくデザインした授業を、さまざまな事項に配慮しながら指導計画として構成すること、またその中で、学習目標に叶った学習評価を、そのときの目的に沿った形で適切に行うことができることを目指す。</p> <p>また、学習指導要領の改訂によってプログラミングの能力が期待される中で、どのような取り組みを始めたら良いのかを考える上でのきっかけをつかむ。</p>
<b>講義の方針・計画</b>	第 1 部 共通教科各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い 第 1 回 1 指導計画作成上の配慮事項 第 2 回 2 内容の取扱いに当たっての配慮事項 第 3 回 3 総則関連事項 第 2 部 授業での学習活動の進め方 第 4 回 「情報社会の問題解決」における学習活動 第 5 回 「コミュニケーションと情報デザイン」における学習活動 第 6 回 「コンピュータとプログラミング」における学習活動 第 7 回 「情報通信ネットワークとデータの活用」における学習活動 第 3 部 学習評価 第 8 回 学習評価の基本的な考え方 第 9 回 学習評価の基本構造 第 10 回 観点別学習状況の評価 第 11 回 学習評価の充実 第 4 部 プログラミング 第 12 回 計算して学ぶ制御構造 第 13 回 時間を操る 第 14 回 偶然をグラフで可視化する 第 15 回 スゴロクをゲームに仕立てる
<b>準備学習(予習・復習)</b>	<p>教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進める。</p> <p>理解できない用語や内容は、参考文献にあたったり Web 検索をしたりすることが準備として必要である。また、教科書や学習用プリントの内容を具体的なイメージにするためには、参考書を用いて学習をさらに深める必要がある。</p> <p>以上のことから、授業範囲の内容の他に、教科書の内容全体を 2 単位で 90 時間かけて学習することを目安とする。</p> <p>成績評価の方法およびその基準</p>
<b>成績評価の方法およびその基準</b>	次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 試験：100%

<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b>
印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。
<b>教科書</b>
書名：高等学校学習指導要領解説 情報編（平成30年7月）（初版） 著者名：文部科学省 発行所：開隆堂出版株式会社 ISBN：9784304021633
<b>参考書・参考 Web サイト</b>
高等学校情報科「情報Ⅰ」教員研修用教材（本編） <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416756.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416756.htm</a> 高等学校情報科「情報Ⅱ」教員研修用教材（本編） <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00742.html">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00742.html</a>
<b>関連授業科目</b>
「情報科教育法Ⅰ」での学習内容が基礎となっているので、「情報科教育法Ⅰ」を初めに履修すること。
<b>その他</b>
なし
<b>担当教員の実務経験</b>
パーソナルコンピュータの普及に伴い学校教育での活用を、インターネットが初等中等教育で利用され始めた頃より学習環境としての活用を模索し実践してきた。改定前の学習指導要領に関わり、教科書の執筆も行ってきた。2003年度に高等学校情報科が新設されてから、北海道の高等学校における情報科担当教員による研究会にも関わりを続けてきた。現在勤務する通信制の学校では、北海道各地の高校に遠隔授業を配信するという取り組みに携わっている。最近では、機械学習をテーマにしたプログラミングについて学んでいる。これらの経験をもとに、情報科教員としての基本的な視点を伝えられるように努めていきたい。



担当教員： 阿部 諭

専 門 教育学、簿記原理  
 出身校等 日本大学 商学部  
 現 職 なし

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業
<b>授業範囲</b>	講義の方針・計画に示された教科書のページ箇所の内容
<b>試験期間</b>	シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2022 科目試験時間割」を参照
<b>試験範囲</b>	授業範囲全て (持ち込み許可物) 一切自由
<b>科目の概要</b>	商業科教員を志望する学生のための科目である。 商業の学びを通して、ビジネスに役立つ知識と技術を習得し、倫理観を踏まえた合理的かつ創造的に解決する力や豊かな人間性を育み、ビジネスの創造と発展に主体的・協働的に取り組む態度を養うなどの資質・能力の育成にある。社会を支え地域産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育むことが、商業科教員には求められている。
<b>科目における学修の到達目標</b>	1. 教科「商業」のねらいや内容等を理解し、説明することができる。 2. 商業教育の必要性、重要性等を理解し、商業教育を推進することができる。 3. ビジネスの果たしている役割や影響を理解して説明することができる。
<b>講義の方針・計画</b>	下記で示すページは、高等学校学習指導要領解説(商業編)を「P-」、幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策について(答申)を「答P-」で示す。 第1回：学習指導要領第1章「総則」の概要 第1款～2款(P179-190)(答P14-16) 教職を志望する者にとって「総則」を理解することは教育課程上必須である。どのようなことが記述されているかを確認する。 第1款高等学校教育の基本と教育課程の役割(P179-180) 教育活動を進めるに当たって、授業改善を通して創意工夫を生かした特色ある教育活動の展開を図ることが重要である。 第2款教育課程の編成(P180-190)(P165-170) 教育課程の編成に当たり、専門教科・科目だけでなく共通教科の必修修教科・科目の単位数等やキャリア教育(P188. 答P55-57)についても理解を深める。 第2回：学習指導要領第1章「総則」の概要 第3款～7款(P191-196) 第3款教育課程の実施と学習評価(P191-192)(答P60-63) 教育課程の実施に当たり、教科・科目等の指導に関する留意事項が記載されている。十分に理解を深め、これからの授業の改善に取り組む。学習評価の実施に向けた配慮事項についても身に付けておくことが涵養である。 第3回：学習指導要領改訂の経緯及び基本方針(P1-5)(答P3-52) 前の1回・2回と関連が深いので見比べてみる。また、この回の内容は「答申」を踏まえたものである。 改訂の背景や経緯の理解を深め、改訂の基本方針が平成28年12月の中央教育審議会答申を踏まえて行われた。「生きる力」の具体化を示す「育成を目指す資質・能力の明確化」の三つの柱は、各教科等の目標や内容についても三つの柱に基づき整理された。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進については、目標や内容の中で種々の学習活動が示された。特にこの二つの事項は背景や経緯も含め理解を深めると共に、全ての講義内容に関わりがあるので留意する。さらに、アクティブ・ラーニングの視点に立った授業を進めるための学習活動を考え、実践に活かせるようにすることも大切である。 「社会に開かれた教育課程」(P2, 答P19. 答P23)「学びの地図」(P2, 答P20)「カリキュラム・マネジメント」(P2, P4-5, P180 答P23-26)は内容を確認し理解を深める。 第4回：商業科改訂の趣旨(P6-10)(答P211-214) 中央教育審議会答申で示された具体的方向性に基づき商業科の改訂が行われた。答申の中の「職業に関する各教科科目」の改善について十分理解を深める。特に「地域や産業界等との連携」(P161)は、授業の改善を実現させるためには重要である。

#### 第5回：商業科改訂の要点(P10-13)

「目標の改善」「内容の改善」が具体的に記述されている。特に目標の改善では従前の目標の示し方や内容等が大幅に改善されている。また、内容の改善においても同様である。これからの商業科の方向性を示す重要な箇所である。

#### 第6回：商業科の目標(P14-16)

第5回の目標の改善でも述べられていたが、「生きる力」の育成を目指す資質・能力が目標に具体的に示され、それを育む学習活動も例示された。どのような資質・能力がどのような学習活動で育まれるかをしっかり把握する。目標の内容や解説を咀嚼し、理解を深めることは各科目の内容の取扱いにおいても極めて重要である。

#### 第7回：商業科の内容構成(P17-18)

科目構成、分野構成については知っておく必要がある。特に各科目の位置付けや各分野が育成する能力の内容を理解する。

#### 第8回：基礎的科目「ビジネス基礎」の概観(P19-27)

この科目は商業科における最も基礎的な科目であるが、最も重要な科目でもある。商業科目全ての導入的科目であることを十分踏まえて、目標やねらい、内容等について理解を深める。特に「内容を取り扱う際の配慮事項」や指導項目の内容の説明などから、留意して指導する点や重点的に指導する点をまとめる。また、「商業に関する学科における原則履修科目(P19, P160)」として位置付けられている理由も考える。原則履修科目と共通教科の必履修科目との違いも調べる。

#### 第9回：基礎的科目「ビジネス・コミュニケーション」の概観(P39-45)

グローバル化の進展やビジネスにおいて円滑にコミュニケーション図るために、必要な資質・能力を育成する視点から再構成された科目である。目標、ねらい、内容等について理解を深める。

#### 第10回：マーケティング分野の科目構成と概観(P46-67)

この分野の科目構成と各科目の目標、ねらい、内容等及この分野が育成する能力について理解を深める。また、育成する能力を育むための学習活動についてまとめる。

#### 第11回：マネジメント分野の科目構成と概観(P68-88)

この分野は答申(答P214)(P10)でも示されたように、ビジネスに関わるマネジメントに関する学習の充実が求められていることから、従前のビジネス経済分野から変更された分野である。この分野の科目構成と各科目の目標、ねらい、内容等及この分野が育成する能力について理解を深める。また、育成する能力を育むための学習活動についてまとめる。

#### 第12回：会計分野の科目構成と概観(P89-123)

この分野の科目構成と各科目の目標、ねらい、内容等及この分野が育成する能力について理解を深める。また、育成する能力を育むための学習活動についてまとめる。まとめる際に、マーケティング分野やマネジメント分野にはある学習活動が、この分野にはない理由も考える。

#### 第13回：ビジネス情報分野の科目構成と概観(P124-158)

この分野の科目構成と各科目の目標、ねらい、内容等及この分野が育成する能力について理解を深める。また、育成する能力を育むための学習活動についてまとめる。まとめる際に、マーケティング分野やマネジメント分野にはある学習活動が、この分野では1科目を除いてない理由も考える。

#### 第14回：総合的科目「課題研究」の概観(P28-32)

目標、ねらい、内容等について理解を深める。「内容を取り扱う際の配慮事項」はしっかり咀嚼しておく。特に指導項目の(4)職業資格の取得に関しては、改訂された事項もあるので留意し理解を深める。また、検定試験と資格取得試験の違いについても考える。

さらに、総則に記載されているように「総合的な探求の時間」に代替できる科目である。できる理由を調べる。その際には、双方のねらいを比較すると理解することができる。

この科目は原則履修科目(P28, P161)として位置付けられている、理由を考える。原則履修科目と共通教科の必履修科目との違いも調べる。

#### 第15回：総合的科目「総合実践」の概観(P33-38)

この科目は、実務に即した実践的・体験的な学習活動であることから、教員自らが実務に即した実践的な体験を積んでおくことが大切である。目標、ねらい、内容等について理解を深める。

### 準備学習(予習・復習)

印刷授業は、教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書の内容全体を2単位で90時間かけて学習することを目安としています。

わからない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。

### 成績評価の方法およびその基準

次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 試験：100%

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。

### 教科書

書名：高等学校学習指導要領解説 商業編 平成 31 年 3 月 10 日初版発行

著者名：文部科学省

発行所：実教出版株式会社

ISBN：9784407348637

答申：幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）平成 28 年 12 月 21 日

：中央教育審議会

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/\\_icsFiles/afiefieldfile/2017/01/10/1380902\\_0.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afiefieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf)

### 参考書・参考 Web サイト

なし

### 関連授業科目

なし

### その他

なし

### 担当教員の実務経験

1973 年から 1999 年まで、公立高等学校で専門教科の教員として、生徒の学習指導や生徒指導に携わる。2000 年から 2008 年までは管理職として、学校経営及び教職員の教育指導に携わる。この間、教材開発や授業評価等の研究を実際の授業に生かしてきた。この経験をもとに、分かる授業の進め方、教材研究の重要性、授業評価の必要性などを学生に伝え、共に考え実践に生かしていける教育を実施する。



担当教員： 阿部 諭

専 門 教育学、簿記原理  
 出身校等 日本大学 商学部  
 現 職 なし

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業
<b>授業範囲</b>	講義の方針・計画に示された教科書等のページ箇所の内容
<b>試験期間</b>	シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2022 科目試験時間割」を参照
<b>試験範囲</b>	授業範囲全て (持ち込み許可物) 一切自由
<b>科目の概要</b>	「商業科教育法1」の上級編。商業教育はビジネスを通し、地域産業や経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人の育成を目指している。このことを踏まえて、商業科科目の内容等の指導法や指導技術等を教育現場の課題や問題点を意識しながら指導計画、学習指導案の作成、教材研究、評価の考え方などを学習する。 生徒の主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の研究に取り組み、効果的な授業の展開ができるようにする。
<b>科目における学修の到達目標</b>	1. 社会を支え地域産業の発展を担う職業人を育成することが出来る。 2. 教科指導のための教材研究、学習指導、評価等の在り方を理解し実践することが出来る。 3. 教科の指導内容と指導方法等に関する専門知識や指導力を身に付けられる。
<b>講義の方針・計画</b>	下記で示すページは、商業科教育論を「P-」、高等学校学習指導要領解説(商業編)を「解P-」、幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策について(答申)を「答P-」、児童生徒の学習評価の在り方について(報告)を「報P-」として示す。  第1回：第1章 商業教育の意義と必要性(P8-15) 1-1 商業教育の基本理念、1-2 商業教育で育む資質・能力～コンテンツからコンピテンシー(答P30)への拡張である。教育課程や教科指導、学力等の面においても、従前からの捉え方、考え方が変わってきていることを認識し理解を深める。今回の重要なポイントである。メタ認知(P12, 答P30)の理解を深める。  第2回：第1章 商業教育の意義と必要性(P15-24) 1-3 商業科担当教員への期待 何時の時代でも教員の資質・能力が問われている。特に近年、社会からの信頼される質の高い教員の育成が求められている。生徒に育成する学力をコンテンツ・ベースからコンピテンシー・ベースへと拡張されたことは、教員の指導力もコンテンツ・ベースの指導力からコンピテンシー・ベースの指導力へと拡張させなければならない。  第3回：第2章 我が国における商業教育の歩み(P26-38) 2-1 明治期の商業教育、2-2 大正期・昭和20(1945)年以前の商業教育、2-3 新教育制度と商業教育 2-4 科目構成、科目名の変遷～改訂年度と科目構成、科目名のみならず、商業科の目標、改訂の背景や特徴等の変遷も調べる。  第4回：第3章 高等学校学習指導要領と商業教育(P40-48) 3-1 学習指導要領の法的位置付け、3-2 学習指導要領の理念～(解P2)(1)改訂の基本的考え方、(解P180)学習指導要領の総則第1款—5.を参考にする。3-3 時代の進展等と商業科の改善～(解P11)(2)内容の改善②学習内容の改善の方向性について解説されている。3-4 商業科の構造～(解P14-18)「商業科の目標」「商業科の内容構成」参照。3-5 商業科の学習指導を考える文脈～指導の目的が「何を知っているか」にとどまりがちで、知っていることを活用して「何ができるようになるか」にまで発展させる必要がある。(答P15, 答P27-31, 答P45-47, 答P47-53), (解P3, 解P3-4, 解P159-160)も併せて見比べ理解を深める。  第5回：第4章 商業科の教育課程の編成と実施(P50-58)(解P165-170, 解P179-196) 4-1 教育課程の意義、4-2 専門性の深化、4-3 カリキュラム・マネジメント～(P18)(解P4-5)(答P23-26)併せて参照する。 4-4 専門学科における各教科・科目の履修～学習指導要領の総則で述べられている事項である。(解P165-170, 解P185-189)特に「課題研究」と「総合的な探求の時間」の代替えに関する事、数字的な事項(例えば専門教科・科目の最低必修

単位数)などは確実に把握し、理由も含め理解を深めておく。

4-5 文部科学省検定済教科用図書等の使用義務、4-6 職業資格とのつながり～(P14, P47) (解 P15-16)職業資格の取得を目的化しないよう留意して取り扱うことが重要である。この事は検定試験に対しても同様である。「課題研究」の指導項目(4)職業資格の取得も参照。4-7 各学科で育成する人材像と教育課程

#### 第6回：第5章 商業科の学習指導(P60-64)

5-1 商業科教育における学習指導の理念と方向性～グローバル化の進展、情報技術の進歩や専門的な知識・技術の高度化など、多様な課題に対応できる課題解決能力を育成することが重要である。育成する人材像については、(解 P14-16)商業科の目標の中で示された資質・能力、(解 P18)各分野で育む力なども考慮し整理しておく。また、課題解決能力については(解 P7)「(2)①i)資質・能力を育成する学びの過程についての考え方」の具体的な課題を踏まえた課題解決的な学習の充実を参照する。

#### 第7回：第5章 商業科の学習指導(P64-72)

5-2 商業科教育における主体的・対話的で深い学び～「主体的・対話的で深い学び」の実現(解 P8-9) (答 P216-217), 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善(解 P159-160), 「主体的・対話的で深い学び」を実現することの意義(答 P49-53)を熟読の上、理解をより一層深める。授業の改善にあたっては、(P65-67)③安心安全の授業環境を整える(1)～(3), ④他者を受け止め、理解する機会を作るは、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善は、生徒の信頼なくしてはできない重要な点である。アクティブ・ラーニングでは教員の役割としてファシリテーター(P70)について述べられているが、これに加えてティーチングとしてのさらなる向上やコーチングとしてのスキルを身に付けておくことが大切である。

#### 第8回：第6章 各分野の学習指導(P74-85)

6-1 基礎的科目(74-85) (解 P19-27, 解 P39-45)～評価の観点は年間指導計画や学習指導案等に関わりが深く重要である。指導方法の具体例、評価の観点、学習指導案の例に注目し、授業実践に備える。評価は観点別評価であることに留意する。6-2 マーケティング分野(P86-99) (解 P46-67)～商業科の目標(解 P14-16)の解説に、目標の(1)～(3)で身に付ける、力を養う、態度を養うための学習活動が示されているので参考にする。評価の観点は年間指導計画や学習指導案等に関わりが深く重要である。評価は観点別評価であることに留意する。指導方法の具体例、評価の観点、学習指導案の例に注目し、授業実践に備える。

#### 第9回：第6章 各分野の学習指導(P100-131) (解 P68-88, 解 P89-123)

6-3 マネジメント分野(P100-131) (解 P68-88)～商業科の目標(解 P14-16)の解説に、目標の(1)～(3)で身に付ける、力を養う、態度を養うための学習活動が示されているので参考にする。評価の観点は年間指導計画や学習指導案等に関わりが深く重要である。評価は観点別評価であることに留意する。指導方法の具体例、評価の観点、学習指導案の例に注目し、授業実践に備える。

6-4 会計分野(P114-131) (解 P89-123)～商業科の目標(解 P14-16)の解説に、目標の(1)～(3)で身に付ける、力を養う、態度を養うための学習活動が示されているので参考にする。評価の観点は年間指導計画や学習指導案等に関わりが深く重要である。評価は観点別評価であることに留意する。指導方法の具体例、評価の観点、学習指導案の例に注目し、授業実践に備える。

#### 第10回：第6章 各分野の学習指導(P132-159) (解 P124-158, 解 P28-32, 解 P33-38)

6-5 ビジネス情報分野(P132-151) (解 P124-158)～商業科の目標(解 P14-16)の解説に、目標の(1)～(3)で身に付ける、力を養う、態度を養うための学習活動が示されているので参考にする。評価の観点は年間指導計画や学習指導案等に関わりが深く重要である。評価は観点別評価であることに留意する。指導方法の具体例、評価の観点、学習指導案の例に注目し、授業実践に備える。

#### 6-6 総合的科目(課題研究、総合実践) (P152-159) (解 P28-32, 解 P33-38)

評価の観点は年間指導計画や学習指導案等に関わりが深く重要である。指導方法の具体例、評価の観点、学習指導案の例に注目し、授業実践に備える。評価は観点別評価であることに留意する。

#### 第11回：第7章 指導計画の理念と作成(P162-174) (解 P159-164)

7-1 指導計画の意義と作成(P162-174)～指導計画の作成にあたっては、解説の「指導計画作成に当たっての配慮事項」も参考にする。

#### 第12回：第7章 指導計画の理念と作成(P175-176) (解 P159-164)

7-2 指導計画の実施・評価・改善(P175-176)～実施にあたって①効果的な話し方、②机間指導の重要性が述べられているが、加えて「発問」の重要性を指摘しておきたい。生徒の思考、認識過程を経るような発問をあらかじめ準備する。発問のねらいは生徒の学習意欲を高めることにある。発問の要件等の研究を深め、実践に備える。

#### 第13回：第8章 学習評価の理念と実際(P178-184) (答 P18, 答 P60-63) (報 P3-27)

学習評価は、学校における教育活動に関し、生徒の学習状況を評価するものであることに留まらず、「カリキュラム・マネジメント」の中で、教育課程や学習・指導方法の評価と結び付ける「指導と評価の一体化」を図ることが重要である。8-1 評価の目的～様々な評価の方法等に精通し、効果的に活用できるよう習熟する。8-2 目標に準拠した評価と評価の観点～学習指導要領では、(解 P191)2 学習評価の充実で、評価の対象は目標に対する学習状況であるとして、絶対評価(目標に準拠した評価)で評価するよう求めている。評価の場面は学習過程と学習成果である。評価の目的は指導の改善と学習意欲の向上である。学習評価の実施にはこれらのことに配慮する。

<p>第14回：第8章 学習評価の理念と実際(P184-192) (報P3-27)        8-3 評価方法の工夫(P184-192) (報P8,報P13)～評価手法の測定できる観点、評価の時期や特徴などを十分に理解し、実際の授業でどのように活用していくかを考える。(報P8,報P13)の「具体的な評価の方法としては、・・・」を参考にして理解を深める。</p> <p>第15回：第9章 魅力ある商業教育(P194-201)        9-1 これからの商業教育、9-2 体系的な商業教育の意義～キャリア教育(答P18脚注,答P55-57)(解P188),「生きる力」(解P3)(答P11脚注),社会に開かれた教育(答P19-20)(解P2),検定試験と資格取得に関する留意事項等(P47)(解P47,解P16,解P11-12「課題研究」),9-3 魅力ある商業教育を目指して</p>
<p><b>準備学習(予習・復習)</b></p> <p>印刷授業は、教科書や検索サイトなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書の内容全体を2単位で90時間かけて学習することを目安としています。        わからない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。</p>
<p><b>成績評価の方法およびその基準</b></p> <p>次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 試験：100%</p>
<p><b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b></p> <p>印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>書名：商業科教育論 2019年10月15日 初版第1刷発行        著者名：日本商業教育学会        発行所：実教出版株式会社        ISBN：9784407344578</p> <p>書名：高等学校学習指導要領解説 商業編 平成31年3月10日 初版発行        著者名：文部科学省        発行所：実教出版株式会社(商業科教育法Iで購入済み)        ISBN：9784407348637</p> <p>答申：幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)平成28年12月21日        :中央教育審議会  <a href="http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf">http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf</a>        報告：児童生徒の学習評価の在り方について(報告)平成31年1月21日        :中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会  <a href="http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/01/_icsFiles/afieldfile/2019/01/21/1412838_1_1.pdf">http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/01/_icsFiles/afieldfile/2019/01/21/1412838_1_1.pdf</a></p>
<p><b>参考書・参考Webサイト</b></p> <p>なし</p>
<p><b>関連授業科目</b></p> <p>なし</p>
<p><b>その他</b></p> <p>なし</p>
<p><b>担当教員の実務経験</b></p> <p>1973年から1999年まで、公立高等学校で専門教科の教員として、生徒の学習指導や生徒指導に携わる。2000年から2008年までは管理職として、学校経営及び教職員の教育指導に携わる。この間、教材開発や授業評価等の研究を実際の授業に生かしてきた。この経験をもとに、分かる授業の進め方、教材研究の重要性、授業評価の必要性などを学生に伝え、共に考え実践に生かしていける教育を実施する。</p>

# 数学科教育法Ⅰ

ナンバリング 2 単位

DTP280



担当教員：菅原 和良

専 門 数学教育、教育一般  
出身校等 東京理科大学 理Ⅱ学部

現 職 北海道情報大学 非常勤講師

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業
<b>授業範囲</b>	学習用プリント集(2)学習の仕方に示した教科書(A)～(D)について、(3)講義計画に示した頁の範囲とする。
<b>試験期間</b>	シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2022 科目試験時間割」を参照
<b>試験範囲</b>	授業範囲すべて (持ち込み許可物) 一切自由
<b>科目の概要</b>	数学科教育法Ⅰは、中学校・高等学校数学科の教員として必要となる指導法や数学的活動の充実、ICT など教育機器の活用のあり方、教材研究や評価等について学ぶことを通し、実践的な指導力の基礎を身に付けることをねらいとします。 数学教育の目的や学習指導要領における目標、内容(各科目と内容)の変遷、数学的活動、指導法、指導計画の作成、学習評価、ICT の活用、教材観について総合的に学びます。
<b>科目における学修の到達目標</b>	学習指導要領に示された数学科の目標や内容を理解するとともに、学習について背景となる学問領域と関連させて理解を深め、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
<b>講義の方針・計画</b>	第1回：学習指導要領・数学科改訂の概要 第2回：数学科改訂の要点 第3回：中学校数学科の目標の改善 第4回：高等学校数学科の目標 第5回：指導計画の作成と内容の取扱い 第6回：急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力 第7回：「令和の日本型学校教育」の構築に向けた今後の方向性 第8回：これまでの数学教育とICTとの組合せ 第9回：義務教育9年間を見通した算数・数学教育 第10回：新しい時代に対応した数学教育 第11回：遠隔・オンライン教育を含むICTを活用した数学教育 第12回：算数・数学の授業研究の現代的意義 第13回：授業改善を目指す授業研究の実際と本質(1) 第14回：授業改善を目指す授業研究の実際と本質(2) 第15回：授業改善を目指す授業研究の実際と本質(3)
<b>準備学習(予習・復習)</b>	印刷授業は、教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容と併せ、教科書の内容全体を2単位で90時間かけて学習することを目安としています。 分からない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。
<b>成績評価の方法およびその基準</b>	次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 試験：100%
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b>	印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。
<b>教科書</b>	書 名：算数・数学 授業研究ハンドブック 著者名：日本数学教育学会編 発行所：東洋館出版社 ISBN：978-4-491-04606-8  以下の2つの学習指導要領解説のPDFデータを、文部科学省のホームページからダウンロードしてください。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・【数学編】中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説  <a href="https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_004.pdf">https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_004.pdf</a></li> <li>・【数学編 理数編】高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説  <a href="https://www.mext.go.jp/content/1407073_05_1_2.pdf">https://www.mext.go.jp/content/1407073_05_1_2.pdf</a></li> </ul> <p>（なお、上記の学習指導要領解説は、書籍としても刊行されています。）</p> <p>書 名：中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 数学編      著者名：文部科学省      発行所：日本文教出版      ISBN：978-4-536-59012-9</p> <p>書 名：高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説 数学編理数編      著者名：文部科学省      発行所：学校図書      ISBN：978-4-7625-0535-5</p>
<p><b>参考書・参考 Web サイト</b></p> <p>講義には、次の資料も用います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」          （「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）【本文】（mext.go.jp）より PDF データをダウンロードしてください。）  <a href="https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4.pdf">https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4.pdf</a></li> </ul>
<p><b>関連授業科目</b></p> <p>なし</p>
<p><b>その他</b></p> <p>なし</p>
<p><b>担当教員の実務経験</b></p> <p>高校教員としての実践や教育行政機関での教員への指導経験、数学教育研究会での活動を通して、数学教育の理念や教材論・方法論への研鑽を積んできた。その経験を該当科目の指導に生かしたいと考える。</p>

# 数学科教育法 II

ナンバリング 2 単位

DTP281



担当教員：菅原 和良

専 門 数学教育、教育一般  
出身校等 東京理科大学 理II学部

現 職 北海道情報大学 非常勤講師

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業
<b>授業範囲</b>	学習用プリント集(2)学習の仕方に示した教科書(A)～(B)について、(3)講義計画に示した頁の範囲とする。
<b>試験期間</b>	シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2022 科目試験時間割」を参照
<b>試験範囲</b>	授業範囲すべて (持ち込み許可物) 一切自由 (試験に関する注意事項) 数学教科書 (I・A) を持参すること
<b>科目の概要</b>	数学科教育法 II は、学習指導要領における数学科の目標及び内容並びに全体構造の理解を踏まえ、高等学校数学科における個別の学習内容について、指導上の留意点を理解するとともに学習評価の考え方を学びます。 実際の授業事例を各単元領域について分析しながら、教材観、授業方法、生徒の把握、数学的活動や教材の工夫、指導案の作成、質疑応答の仕方など望ましい授業の在り方と方法について学びます。
<b>科目における学修の到達目標</b>	高等学校数学科における基礎的な学習理論を理解し、具体的な授業場面を想定した学習指導計画や指導案、授業の流れ、授業者の発問と生徒の反応などの実践的な指導力の形成と授業設計を行う方法を身に付ける。
<b>講義の方針・計画</b>	第 1 回：数学科の目標 第 2 回：数学科の各科目 第 3 回：指導計画作成上の配慮事項 第 4 回：内容の取扱いに当たっての配慮事項 第 5 回：理数科について 第 6 回：数学 I の内容と内容の取扱い 第 7 回：数学 II の内容と内容の取扱い 第 8 回：数学 III の内容と内容の取扱い 第 9 回：数学 A の内容と内容の取扱い 第 10 回：数学 B の内容と内容の取扱い 第 11 回：数学 C の内容と内容の取扱い 第 12 回：学習評価について 第 13 回：学習評価の基本的な流れ 第 14 回：「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順 第 15 回：単元ごとの学習評価について (事例)
<b>準備学習(予習・復習)</b>	印刷授業は、教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容と併せ、教科書の内容全体を 2 単位で 90 時間かけて学習することを目安としています。 分からない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。
<b>成績評価の方法およびその基準</b>	次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 試験：100%
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b>	印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。
<b>教科書</b>	書 名：学習指導要領(平成 30 年文部科学省告示第 68 号)に基づいて編集された文部科学省検定済教科書 NEXT 数学 I 著者名：岡部恒治 他 発行所：数研出版 ※上記以外的高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)に基づき編集された令和 3 年検定済の「数学 I」教科書をすでに所有している場合は、その教科書を代替使用して良い。

書名：学習指導要領(平成30年文部科学省告示第68号)に基づいて編集された文部科学省検定済教科書 NEXT 数学A  
著者名：岡部恒治 他  
発行所：数研出版  
※上記以外の高等学校学習指導要領(平成30年告示)に基づき編集された令和3年検定済の「数学A」教科書をすでに所有している場合は、その教科書を代替使用して良い。

以下の学習指導要領解説のPDFデータを、文部科学省のホームページからダウンロードしてください。

- ・【数学編 理数編】高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説  
[https://www.mext.go.jp/content/1407073\\_05\\_1\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1407073_05_1_2.pdf)

以下の参考資料のPDFデータを、国立教育政策研究所のホームページからダウンロードしてください。

- ・「指導と評価の一体化」のための学習指導に関する参考資料【高等学校 数学】  
[https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r030820\\_hig\\_suugaku.pdf](https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r030820_hig_suugaku.pdf)

(なお、上記の学習指導要領解説と参考資料は、書籍としても刊行されています。)

書名：高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編理数編  
著者名：文部科学省  
発行所：学校図書  
ISBN：978-4-7625-0535-5

書名：「指導と評価の一体化」のための学習指導に関する参考資料【高等学校 数学】  
著者名：国立教育政策研究所教育課程研究センター  
発行所：東洋館出版  
ISBN：978-4-491-04703-4

#### 参考書・参考Webサイト

- ・教科書会社教授資料  
数研出版(高校 | チャート式の数研出版(chart.co.jp))  
<https://www.chart.co.jp/goods/koukou/>  
啓林館(数学 | 高等学校 | 知が啓く。教科書の啓林館(shinko-keirin.co.jp))  
<https://www.shinko-keirin.co.jp/keirinkan/kou/math/>  
東京書籍(【東京書籍】教科書教材 数学(tokyo-shoseki.co.jp)) 他  
<https://www.tokyo-shoseki.co.jp/textbook/h/3/>
- ・(ネットワーク型教材データベース) 数学のいずみ  
<http://www.izumi-math.jp/>

#### 関連授業科目

なし

#### その他

なし

#### 担当教員の実務経験

高校教員としての実践や教育行政機関での教員への指導経験、数学教育研究会での活動を通して、数学教育の理念や教材論・方法論への研鑽を積んできた。その経験を該当科目の指導に生かしたいと考える。



担当教員：菅原 和良

専 門 数学教育、教育一般  
出身校等 東京理科大学 理II学部

現 職 北海道情報大学 非常勤講師

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業
<b>授業範囲</b>	教科書・資料、学習用プリント集の内容
<b>試験期間</b>	シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2022 科目試験時間割」を参照
<b>試験範囲</b>	授業範囲すべて (持ち込み許可物) 一切自由 (試験に関する注意事項) 数学教科書 (中学数学1・2・3) を持参すること
<b>科目の概要</b>	数学科教育法IIIは中学校数学の教員としての学習指導の力量を身に付けるため、学習指導要領における数学科の目標及び内容並びに全体構造の理解を踏まえ、中学校数学科における個別の学習内容について、指導上の留意点を理解するとともに学習評価の考え方を学びます。 実際の授業事例を各単元領域について分析しながら、教材観、授業方法、生徒の把握、数学的活動や教材の工夫、指導案の作成、質疑応答の仕方など望ましい授業の在り方と方法について学びます。
<b>科目における学修の到達目標</b>	中学校数学科における基礎的な学習理論を理解し、具体的な授業場面を想定した学習指導計画や指導案、授業の流れ、授業者の発問と生徒の反応などの実践的な指導力の形成と授業設計を行う方法を身に付ける。
<b>講義の方針・計画</b>	第1回：数学科の目標 第2回：数学科の内容 第3回：第1学年の目標及び内容 第4回：第2学年の目標及び内容 第5回：第3学年の目標及び内容 第6回：指導計画の作成と内容の取扱い 第7回：学習評価の改善 第8回：学習評価の基本的な流れ 第9回：「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順 第10回：単元ごとの学習評価 (事例) 第11回：「問題解決の授業」の日常化 第12回：一層求められる授業改善 第13回：授業前の教材研究 第14回：授業後の教材研究 第15回：授業改善のための研究や実践研究
<b>準備学習(予習・復習)</b>	印刷授業は、教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容と併せ、教科書の内容全体を2単位で90時間かけて学習することを目安としています。 分からない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。
<b>成績評価の方法およびその基準</b>	次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 試験：100%
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b>	印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。
<b>教科書</b>	書 名：『問題解決の授業』を日常化する！中学校数学科の授業改善 著者名：相馬一彦・谷地元直樹 発行所：明治図書 ISBN：978-4-18-318425-2

書名：学習指導要領(平成29年告示)に基づいて編集された文部科学省検定済教科書 新しい数学1

著者名：藤井齊亮、真島秀行他

発行所：東京書籍

※上記以外の中学校学習指導要領(平成29年告示)に基づき編集された令和2年検定済の中学校1年生用数学の教科書をすでに所有している場合は、その教科書を代替使用して良い。

書名：学習指導要領(平成29年告示)に基づいて編集された文部科学省検定済教科書 新しい数学2

著者名：藤井齊亮、真島秀行他

発行所：東京書籍

※上記以外の中学校学習指導要領(平成29年告示)に基づき編集された令和2年検定済の中学校2年生用数学の教科書をすでに所有している場合は、その教科書を代替使用して良い。

書名：学習指導要領(平成29年告示)に基づいて編集された文部科学省検定済教科書 新しい数学3

著者名：藤井齊亮、真島秀行他

発行所：東京書籍

※上記以外の中学校学習指導要領(平成29年告示)に基づき編集された令和2年検定済の中学校3年生用数学の教科書をすでに所有している場合は、その教科書を代替使用して良い。

以下の学習指導要領解説のPDFデータを、文部科学省のホームページからダウンロードしてください。

・【数学編】中学校学習指導要領(平成29年告示)解説

[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018\\_004.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_004.pdf)

以下の参考資料のPDFデータを、を国立教育政策研究所のホームページからダウンロードしてください。

・「指導と評価の一体化」のための学習指導に関する参考資料【高等学校 数学】

[https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r030820\\_hig\\_suugaku.pdf](https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r030820_hig_suugaku.pdf)

(なお、上記の学習指導要領解説と参考資料は、書籍としても刊行されています。)

書名：中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編

著者名：文部科学省

発行所：日本文教出版

ISBN：978-4-536-59012-9

書名：「指導と評価の一体化」のための学習指導に関する参考資料【中学校 数学】

著者名：国立教育政策研究所教育課程研究センター

発行所：東洋館出版

ISBN：978-4-491-04134-6

### 参考書・参考Webサイト

・教科書会社教授資料

数研出版(中学校教科書のご案内 | チャート式の数研出版 (chart.co.jp))

<https://www.chart.co.jp/kyokasho/21chu/>

啓林館(授業支援・サポート資料 | 数学 | 中学校 | 知が啓く。教科書の啓林館 (shinko-keirin.co.jp))

<https://www.shinko-keirin.co.jp/keirinkan/chu/math/support/>

東京書籍(【東京書籍】教科書教材 数学 (tokyo-shoseki.co.jp))

<https://www.tokyo-shoseki.co.jp/textbook/j/4/>

教育出版(数学 - 教育出版 (kyoiku-shuppan.co.jp))

<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/textbook/chuu/sugaku/index.html>

他

### 関連授業科目

なし

### その他

なし

### 担当教員の実務経験

高校教員としての実践や教育行政機関での教員への指導経験、数学教育研究会での活動を通して、数学教育の理念や教材論・方法論への研鑽を積んできた。その経験を該当科目の指導に生かしたいと考える。



担当教員： 菅原 和良

専 門 数学教育、教育一般  
出身校等 東京理科大学 理Ⅱ学部

現 職 北海道情報大学 非常勤講師

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業
<b>授業範囲</b>	教科書・資料、学習用プリント集の内容
<b>試験期間</b>	シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2022 科目試験時間割」を参照
<b>試験範囲</b>	授業範囲すべて (持ち込み許可物) 一切自由
<b>科目の概要</b>	<p>中学校数学の目標・内容を踏まえて、数学的活動や教材について学ぶとともに、実践的な指導力のもととなる教材観を形成することをねらいとします。</p> <p>中学校数学の目標の達成や内容、数学的活動の充実に向け、全国学力・学習状況調査や国際的な調査の結果から成果と課題を確認し、指導方法の工夫と教材研究について学びます。</p>
<b>科目における学修の到達目標</b>	中学校数学に関わる各種調査結果から、成果と課題を確認し、中学校の数学の教員に求められる指導の工夫と教材観の育成を目指す。
<b>講義の方針・計画</b>	<p>第 1 回：令和 3 年度全国学力・学習状況調査解説資料について</p> <p>第 2 回：調査問題・質問紙調査</p> <p>第 3 回：調査問題の具体と解説について (1)</p> <p>第 4 回：調査問題の具体と解説について (2)</p> <p>第 5 回：調査の概要</p> <p>第 6 回：調査の結果</p> <p>第 7 回：各問題の分析結果と課題 (1)</p> <p>第 8 回：各問題の分析結果と課題 (2)</p> <p>第 9 回：各問題の分析結果と課題 (3)</p> <p>第 10 回：授業アイデア例</p> <p>第 11 回：これまでの全国学力・学習状況調査 (1)</p> <p>第 12 回：これまでの全国学力・学習状況調査 (2)</p> <p>第 13 回：OECD 生徒の学習到達度調査(PISA)</p> <p>第 14 回：IEA 国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)</p> <p>第 15 回：学習指導要領実施状況調査</p>
<b>準備学習(予習・復習)</b>	<p>印刷授業は、教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容と併せ、教科書の内容全体を 2 単位で 90 時間かけて学習することを目安としています。</p> <p>分からない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。</p>
<b>成績評価の方法およびその基準</b>	次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 試験：100%
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b>	印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。
<b>教科書</b>	<p>次に示した資料を教科書として使用します。</p> <p>資料はいずれも国立教育政策研究所のホームページから、PDF データをダウンロードしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和 3 年度全国学力・学習状況調査解説資料 (中学校 数学) <a href="https://www.nier.go.jp/21chousa/pdf/21kaisetsu_chuu_suugaku.pdf">https://www.nier.go.jp/21chousa/pdf/21kaisetsu_chuu_suugaku.pdf</a></li> <li>令和 3 年度全国学力・学習状況調査の調査問題 (中学校 数学) <a href="https://www.nier.go.jp/21chousa/pdf/21mondai_chuu_suugaku.pdf">https://www.nier.go.jp/21chousa/pdf/21mondai_chuu_suugaku.pdf</a></li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度全国学力・学習状況調査の調査問題正答例（中学校 数学） <a href="https://www.nier.go.jp/21chousa/pdf/21seitourei_chuu_suugaku.pdf">https://www.nier.go.jp/21chousa/pdf/21seitourei_chuu_suugaku.pdf</a></li> <li>・令和3年度全国学力・学習状況調査の生徒質問紙 <a href="https://www.nier.go.jp/21chousa/pdf/21shitumonshi_chuu_seito.pdf">https://www.nier.go.jp/21chousa/pdf/21shitumonshi_chuu_seito.pdf</a></li> <li>・令和3年度全国学力・学習状況調査の学校質問紙 <a href="https://www.nier.go.jp/21chousa/pdf/21shitumonshi_chuu_gakkou.pdf">https://www.nier.go.jp/21chousa/pdf/21shitumonshi_chuu_gakkou.pdf</a></li> <li>・令和3年度 全国学力・学習状況調査 報告書 <a href="https://www.nier.go.jp/21chousakekkahoukoku/report/data/21mmath.pdf">https://www.nier.go.jp/21chousakekkahoukoku/report/data/21mmath.pdf</a></li> <li>・全国学力・学習状況調査 授業アイデア例（中学校） <a href="https://www.nier.go.jp/jugyourei/r03/data/21m.pdf">https://www.nier.go.jp/jugyourei/r03/data/21m.pdf</a></li> </ul>
<b>参考書・参考 Web サイト</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・OECD 生徒の学習到達度調査（PISA） （OECD 生徒の学習到達度調査（PISA）：国立教育政策研究所 National Institute for Educational Policy Research（nier.go.jp） からアクセス可能） <a href="https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/index.html">https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/index.html</a></li> <li>・I E A 国際数学・理科教育動向調査（TIMSS） （TIMSS（国際数学・理科教育動向調査）：国立教育政策研究所 National Institute for Educational Policy Research（nier.go.jp） からアクセス可能） <a href="https://www.nier.go.jp/timss/index.html">https://www.nier.go.jp/timss/index.html</a></li> <li>・国際成人力調査（PIAAC） （国際成人力調査（PIAAC）：国立教育政策研究所 National Institute for Educational Policy Research（nier.go.jp） からアクセス可能） <a href="https://www.nier.go.jp/04_kenkyu_annai/div03-shogai-piaac-pamph.html">https://www.nier.go.jp/04_kenkyu_annai/div03-shogai-piaac-pamph.html</a></li> </ul> <p>※ 上記資料はいずれも国立教育政策研究所のホームページからアクセスできる。</p>
<b>関連授業科目</b>
なし
<b>その他</b>
なし
<b>担当教員の実務経験</b>
<p>高校教員としての実践や教育行政機関での教員への指導経験、数学教育研究会での活動を通して、数学教育の理念や教材論・方法論への研鑽を積んできた。その経験を該当科目の指導に生かしたいと考える。</p>

# 数学科教育法 V

ナンバリング 2 単位

DTP284



担当教員：菅原 和良

専 門 数学教育、教育一般  
出身校等 東京理科大学 理Ⅱ学部

現 職 北海道情報大学 非常勤講師

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業
<b>授業範囲</b>	教科書・資料、学習用プリント集の内容
<b>試験期間</b>	シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2022 科目試験時間割」を参照
<b>試験範囲</b>	授業範囲すべて (持ち込み許可物) 一切自由
<b>科目の概要</b>	学習指導要領ではカリキュラム・マネジメントの実施に資するため、育成すべき資質・能力の明確化のもと、学習指導の充実・改善並びに学習評価の工夫・見直しが求められています。このことを踏まえ「指導と評価の一体化」を図る評価問題の作成とその後の指導の在り方について実践的に学びます。 生徒の学習の理解度を測る客観的な尺度として、全国の高校入試問題を教材として、それらの結果分析から、生徒に身に付けさせたい学力と主体的・対話的で深い学びの視点を大切に授業の改善について学びます。
<b>科目における学修の到達目標</b>	学習指導要領において育成を目指す資質の3つの柱「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」に基づき、生徒の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解し、評価問題を活用した授業改善の視点を身に付けることを目指す。
<b>講義の方針・計画</b>	第1回：学習評価の在り方について 第2回：数学入試問題研究 第3回：評価問題の具体例（1） 第4回：評価問題の具体例（2） 第5回：評価問題の具体例（3） 第6回：評価問題の具体例（4） 第7回：評価問題の具体例（5） 第8回：評価問題の具体例（6） 第9回：評価問題の具体例（7） 第10回：評価問題の具体例（8） 第11回：評価問題の具体例（9） 第12回：評価問題の具体例 国立高校篇（1） 第13回：評価問題の具体例 国立高校篇（2） 第14回：評価問題の具体例 高等専門学校・私立高校篇 第15回：授業改善の視点から一まとめと考察
<b>準備学習(予習・復習)</b>	印刷授業は、教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書の内容全体を2単位で90時間かけて学習することを目安としています。 わからない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。
<b>成績評価の方法およびその基準</b>	次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 試験：100%
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b>	印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。
<b>教科書</b>	書 名：2022 年受験用 全国高校入試問題正解 数学 発行所：旺文社 ISBN：978-4-01-021934-8

<b>参考書・参考 Web サイト</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習評価の在り方ハンドブック（小・中学校編 令和元年6月）  (gakushuhyouka_R010613-01.pdf (nier.go.jp) より PDF データとしてダウンロード可能)  <a href="https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/gakushuhyouka_R010613-01.pdf">https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/gakushuhyouka_R010613-01.pdf</a></li> <li>・学習評価の在り方ハンドブック（高等学校編 令和元年6月）  (gakushuhyouka_R010613-02.pdf (nier.go.jp) より PDF データとしてダウンロード可能)  <a href="https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/gakushuhyouka_R010613-02.pdf">https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/gakushuhyouka_R010613-02.pdf</a></li> </ul> <p>※ 上記資料はいずれも国立教育政策研究所のホームページから取得できる。</p>
<b>関連授業科目</b>
なし
<b>その他</b>
なし
<b>担当教員の実務経験</b>
<p>高校教員としての実践や教育行政機関での教員への指導経験、数学教育研究会での活動を通して、数学教育の理念や教材論・方法論への研鑽を積んできた。その経験を該当科目の指導に生かしたいと考える。</p>



担当教員： 山口 晴敬

専 門 教師教育学 教育社会学 教科教育学  
 出身校等 北海道大学大学院 教育学専攻 博士後期課程 単位取得後退学  
 現 職 北海道情報大学 非常勤講師

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業
<b>授業範囲</b>	教科書の内容すべて
<b>試験期間</b>	シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2022 科目試験時間割」を参照
<b>試験範囲</b>	授業範囲すべて、学習用プリントの内容すべて (持ち込み許可物) 一切自由 (試験に関する注意事項) すべての演習問題に取り組み、それらをノートにまとめ持参していただきたい。
<b>科目の概要</b>	「教育原理」は教育の基礎理論を総合的に学び、他の教職課程を学習するための基本になる科目である。「教育原理」の学習内容は幅広いので、本講義では主に「学校教育」に係わる教育理論について広く浅く取り扱う。また、「学校」という窓口を通して現代教育の問題や課題を理解し、思考していくことを意図している。受講生は1冊のテキストを読み込んで理解し、自ら主体的に考察していくことを目的とする。また、テキスト以外の文献を最低一冊は読破し、学習を深めてほしいと考える。
<b>科目における学修の到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解している</li> <li>2. 教育を成り立たせる子ども、教員及び過程等の相互関係を理解している</li> <li>3. 家庭及び社会による教育の歴史を理解している</li> <li>4. 近代教育制度の成立および展開を理解している</li> <li>5. 現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している</li> <li>6. 家庭及び子どもに関わる教育の思想を理解している</li> <li>7. 学校及び学習に関わる教育の思想を理解している</li> <li>8. 代表的な教育家の思想を理解している</li> </ol>
<b>講義の方針・計画</b>	第1回 教育をどのように捉えるか 第2回 教育の構成要素とそれらの相互の関係性を考える 第3回 公教育の組織化 第4回 西洋教育思想の源流 第5回 宗教と教育 第6回 近代教育の思想 第7回 新教育の思想 第8回 近代学校の誕生と展開 第9回 日本における近代以前の人間形成 第10回 日本型の学校の形成 第11回 戦後の学校 第12回 西洋における教育の実践 第13回 日本における教育の実践 第14回 資質・能力と学力 第15回 情報化社会の公教育
<b>準備学習(予習・復習)</b>	印刷授業は、2 単位 90 時間の学修を、教科書や学習用プリントなどを基に、自学自習で進めることになる。 (予習) 次回のテキストの通読と用語の確認をする(2 時間程度) (復習) テキストの理解できた箇所、理解が不十分である箇所を明確にしておき、不十分である箇所は参考文献等で詳しく調べる(2 時間程度)
<b>成績評価の方法およびその基準</b>	次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 試験：100%
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b>	

レポートにコメントを入れて返却する。

### 教科書

書名：アクティベート教育学01 教育原理（初版）  
著書名：汐見稔幸・奈須正裕〔監修〕  
発行所：ミネルヴァ書房  
発行年：2020年  
ISBN：9784623088133

### 参考書・参考Webサイト

書名：やさしい教育原理〔第3版〕  
著書名：田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二  
発行所：有斐閣アルマ  
発行年：2016年  
書名：新しい時代の教職入門〔改訂版〕  
著者名：秋田喜代美・佐藤学（編著）  
発行所：有斐閣アルマ  
発行年：2015年

### 関連授業科目

教職概論

### その他

特になし

### 担当教員の実務経験

1991年から2021年まで30年間、公立高等学校で教職経験あり。実務経験を活かし多角的な「教育」や「学校」のあり方を考えさせたい。



担当教員： 河井 由佳

専 門 比較国際教育学  
 出身校等 広島大学大学院教育学研究科  
 現 職 なし

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業
<b>授業範囲</b>	
教科書の内容すべて	
<b>試験期間</b>	
シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2022 科目試験時間割」を参照	
<b>試験範囲</b>	
授業範囲すべて・教科書の内容すべて (持ち込み許可物) 一切自由 (試験に関する注意事項) 演習問題をすべてやり、ノートにまとめておいて下さい。	
<b>科目の概要</b>	
本科目は、戦後教員養成の二大原則「大学における教員養成」と「開放制」の意義を念頭において、現在の教員には何が求められるのか、教員としての適格性を持つためには日々どのような努力をしていけばよいのかについて、履修生の皆さんが考えるきっかけを提供することをねらいとしています。	
<b>科目における学修の到達目標</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教職の意義や教員の役割について自らの言葉で表現することができる。</li> <li>(2) 教員の職務内容等について自らの言葉で表現することができる。</li> <li>(3) 自らの進路に教職を選択する事の可否について判断することができる。</li> <li>(4) 学び続ける教師として、基礎的な研究を遂行することができる。</li> </ol>	
<b>講義の方針・計画</b>	
第1回：教師の日常世界へ 第2回：授業をつくる 第3回：授業から学ぶ 第4回：カリキュラムをデザインする 第5回：子どもを育む 第6回：生涯を教師として生きる 第7回：同僚とともに学校を創る 第8回：教職の専門性 第9回：時代の中の教師 第10回：教師の仕事とジェンダー 第11回：教育改革と教師の未来 第12回：教師教育研究（1）—求められる教師像— 第13回：教師教育研究（2）—教員採用制度— 第14回：教師教育研究（3）—教員研修制度— 第15回：教師教育研究（4）—教員評価制度—	
<b>準備学習(予習・復習)</b>	
印刷授業は、教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書の内容全体を2単位で90時間かけて学習することを目安としています。 わからない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。	
<b>成績評価の方法およびその基準</b>	
次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 試験：100%	
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b>	
印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。	
<b>教科書</b>	
書 名：新しい時代の教職入門（改訂版） 著者名：秋田 喜代美・佐藤 学 編著 発行所：有斐閣 版 　：改訂版 2015年	

ISBN : 9784641220607

### 参考書・参考 Web サイト

書名：タイの教師教育改革—現職者のエンパワメント—

著者名：牧 貴愛

発行所：広島大学出版会

版：2012年

書名：アジアの教員—変貌する役割と専門職への挑戦

著者名：小川 佳万・服部 美奈 編著

発行所：ジアース教育新社

版：2012年

書名：新版 教育小事典（第3版）

著者名：平原春好・寺崎昌男 編集代表

発行所：学陽書房

版：第3版 2011年

書名：教職用語辞典

著者名：原 聡介 編集代表

発行所：一藝社

版：2008年

書名：必携教職六法＜2016年度版＞

著者名：若井 彌一 監修

発行所：協同出版

版：2015年

書名：新版 論文の教室—レポートから卒論まで—

著者名：戸田山 和久

発行所：NHK出版

版：2012（平成24）年

書名：この一冊できちんと書ける！論文・レポートの基本

著者名：石黒 圭

発行所：日本実業出版社

版：2012年

### 関連授業科目

なし

### その他

なし

### 担当教員の実務経験

2003年から2010年まで、小学校教員として児童の指導に当たった。在職中は人権同和教育主任、外国語教科主任などの校務分掌に携わった。これらの実務経験を生かし、日本の教職の現場の現状や問題点を想起しながら教職の課題について検証していけるような教育を実施する。



担当教員： 高島 裕美

専 門 教育社会学、教員組織  
 出身校等 北海道大学大学院教育学研究科 教育学修士  
 現 職 拓殖大学北海道短期大学 准教授

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業
<b>授業範囲</b>	教科書の内容すべて
<b>試験期間</b>	シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2022 科目試験時間割」を参照
<b>試験範囲</b>	授業範囲すべて (持ち込み許可物) 一切自由
<b>科目の概要</b>	<p>本科目の学習のねらいは、「教育という営みを支えている仕組みについて理解する」ことにある。ここでいう“仕組み”とは、国が国として行うべき教育を支えている法律や規定のことを指す。だが、こうした“仕組み”はいつの時代も不変だというわけではない。そこで、現在の教育のあり方を規定している諸制度の歴史の変遷や、それに伴う議論等、“仕組み”の成立過程についての学びが重要となる。</p> <p>また現在では、教育という営みは、多くの人々にとってなじみ深い存在である「学校」と切り離しては考えられない。実際に多くの学校では、よりよい教育・学習活動の実現のための“仕組み”づくりにさまざまな工夫を各々凝らしている。こうした「教育の現場」に対するまなごしも、欠かすことはできない。</p> <p>こうした立場から、教育を支える“仕組み”をさまざまな角度から捉え、受講者の理解を深める。</p>
<b>科目における学修の到達目標</b>	<p>本科目の学習をとおして、日本国憲法で定められている国民の「教育を受ける権利」を保障するために整備されている“仕組み”を、国一地方自治体一学校というそれぞれの角度から捉え理解できるようになることが、本科目の到達目標である。</p> <p>また、本科目の受講者には、教職志望の学生あるいは現職教員が多く含まれることが予想される。受講者が、実際に教員として学校で働くにあたって必要となる、現在の学校組織の特徴や教育活動の根拠となる法制度、そして現在の学校をめぐる諸課題への対応の仕方をしっかりと理解し身につけておくことは必要不可欠である。そのことを強く意識したうえで学習を進め、現在の教育・学校全体に対する基礎事項についての理解を深めてほしい。</p>
<b>講義の方針・計画</b>	<p>第1回 教育制度の基本と改革動向—日本と世界の教育の動き</p> <p>第2回 学校の制度—学校はどのように発展し、今どうなっているのか</p> <p>第3回 教職員の制度—教職員の職務内容と守るべき義務</p> <p>第4回 教員養成の制度—教員免許制度改革の近年的動向に焦点を当てて</p> <p>第5回 教員研修の制度—「学び続ける教員」を支えるしくみ</p> <p>第6回 教育委員会の制度—その現状と改革の方向性</p> <p>第7回 教員の福利厚生—学校の先生の待遇は恵まれているのか</p> <p>第8回 学校評価の制度—やりがいのある学校評価を目指して</p> <p>第9回 教員評価の制度—評価システムを通して見えるもの</p> <p>第10回 学校給食の制度—「何食べた？」以外のさまざまな側面</p> <p>第11回 教科書の制度—検定・採択の特徴と教育意思</p> <p>第12回 秋季入学制度—そのメリット・デメリットとは</p> <p>第13回 奨学金の制度—教育費負担の軽減とその課題</p> <p>第14回 学校関係者による学校支援の制度—「地域とともにある学校」への協働に向けて</p> <p>第15回 入試制度—学びの質を保障する選抜とは</p>
<b>準備学習(予習・復習)</b>	印刷授業は、教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書の内容全体を2単位で90時間かけて学習することを目安としています。 わからない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。
<b>成績評価の方法およびその基準</b>	次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 試験：100%
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b>	

印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。
<b>教科書</b>
書名：新・教育制度論—教育制度を考える15の論点—（初版） 著者名：高妻 紳二郎（編著） 発行所：ミネルヴァ書房 ISBN：9784623069798
<b>参考書・参考Webサイト</b>
学習の際、参考となるWebサイトは次の通り。 ・電子政府の総合窓口 e-Gov「日本国憲法」 （ <a href="https://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws_search/lsg0500/detail?lawId=321CONSTITUTION">https://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws_search/lsg0500/detail?lawId=321CONSTITUTION</a> , 最終閲覧：2020年2月13日） ・文部科学省ホームページ「改正前後の教育基本法の比較」 （ <a href="https://www.mext.go.jp/b_menu/kihon/about/06121913/002.pdf">https://www.mext.go.jp/b_menu/kihon/about/06121913/002.pdf</a> , 最終閲覧：2020年2月13日） ・文部科学省ホームページ「中教審第184号『これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～（平成27年12月21日）』」 （ <a href="https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1365665.htm">https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1365665.htm</a> , 最終閲覧：2020年2月13日） ・文部科学省ホームページ「中教審第185号『チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（平成27年12月21日）』」 （ <a href="https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1365657.htm">https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1365657.htm</a> , 最終閲覧：2020年2月13日）
<b>関連授業科目</b>
なし
<b>その他</b>
なし
<b>担当教員の実務経験</b>
2013年より現在まで、大学・短期大学・専門学校等で教職課程に関する科目を担当している（教育方法論、教育社会学、教育学・教育原理・教育の基礎と理念等）。また、現在の本務校には幼稚園教諭養成校課程が設置されており、教職課程担当教員として保育に関わる科目はもとより、教育原理・教育課程総論等の科目を担当している。さまざまな養成校で教育活動を進めるなかで、現在の学生に求められる知識・技能や彼ら・彼女らが興味・関心を持てるような講義の内容・方法について知り、それにもとづいて絶えざる授業改善が実現している。 こうした経験を活かし、本講義でも、受講生が主体的に学びを深められるような工夫・改善をしてゆく。



担当教員： 尾川 満宏

専 門  
出身校等

教育社会学  
広島大学大学院教育学研究科博士課程後期 修了 博士（教育学）

現 職

愛媛大学 教育学部 講師

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業
<b>授業範囲</b>	教科書および学習用プリントのすべて
<b>試験期間</b>	シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2022 科目試験時間割」を参照
<b>試験範囲</b>	授業範囲すべて (持ち込み許可物) 一切自由 (試験に関する注意事項) 教科書を必ず持参すること
<b>科目の概要</b>	本講義では、〈子ども〉という存在や、子どもと社会、子どもの文化をめぐる私たちの認識や語り方を、さまざまな題材を通して徹底的に問い直す。この作業を通じて、教育をめぐる社会問題や文化事象を社会学的な視点から考察し、教師あるいは大人として、子どもや教育にどのように携わることが可能かについて検討する。
<b>科目における学修の到達目標</b>	受講生諸氏が、自身の子ども観や教育観、学校観を問い直し、現代社会における子どもの育ちや生活をどのようにとらえ、支援していこうとするのかについて、学習成果にもとづく自己の変容を説明できるようになることを目指す。
<b>講義の方針・計画</b>	第1回 オリエンテーション：本講義での学び方 第2回 社会変容のなかの子ども1：「創造物としての子ども」「子ども社会研究における子ども観」 第3回 社会変容のなかの子ども2：「『大人になる』とはどういうことか？」 第4回 教育の理念、制度とその課題1：「子どもの貧困と教育機会」 第5回 教育の理念、制度とその課題2：「教室の中の子どもたち」 第6回 教育の理念、制度とその課題3：「学力の社会学」 第7回 教育の理念、制度とその課題4：「受験競争からみる子ども社会」 第8回 教育の理念、制度とその課題5：「『学校化』する大学と『生徒化』する学生」 第9回 子ども・学校・地域等1：「日本の近代化と悪戯っ子たち」 第10回 子ども・学校・地域等2：「ピーターパンのエクリチュール」 第11回 子ども・学校・地域等3：「ポスト心理主義時代の『子ども』の多元的解放」 第12回 学校・子どもをめぐる現代的諸問題1「ラベリングといじめ」 第13回 学校・子どもをめぐる現代的諸問題2「『学校の怪談』と子ども文化」 第14回 学校・子どもをめぐる現代的諸問題3：「特撮ヒーロー番組に描かれるジェンダー」 第15回 まとめ：学校と子どもの世界を読み解く
<b>準備学習(予習・復習)</b>	印刷授業は、教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書の内容全体を2単位で90時間かけて学習することを目安としています。 わからない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。
<b>成績評価の方法およびその基準</b>	次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 試験：100%
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b>	印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。
<b>教科書</b>	書 名：『入門・子ども社会学—子どもと社会・子どもと文化—』（初版） 著者名：南本長穂・山田浩之編著 発行所：ミネルヴァ書房（2015年） ISBN：9784623071500
<b>参考書・参考 Web サイト</b>	

なし
<b>関連授業科目</b>
「教育制度論」、「進路指導」、「生徒指導」、「特別活動論」
<b>その他</b>
なし
<b>担当教員の実務経験</b>
実務経験なし



担当教員： 佐藤 公治

専 門 教育心理学、発達心理学  
 出身校等 北海道大学大学院教育学研究科 博士課程（博士・教育学）  
 現 職 北海道大学 大学名誉教授

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業
<b>授業範囲</b>	教科書の1章から10章まで
<b>試験期間</b>	シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2022 科目試験時間割」を参照
<b>試験範囲</b>	授業範囲すべて (持ち込み許可物) 一切自由
<b>科目の概要</b>	この授業では、実際の学校現場においてどのように学習者を教師が指導していけばよいかという問題を教育心理学の研究成果をもとにして体系的に論じる。この授業で中心に取り上げるのは、教室における学習者の学習活動と教師の指導のあり方である。さらに、近年学校現場での適切な対応が求められている特別な支援を必要としている児童・生徒の学習支援のあり方についても扱う。主な学習内容は1) 教育心理学の性格と課題、その歴史の変遷、2) 教育改革と学力、3) 発達と学習についての新しい考え、4) 認知心理学の学習研究、5) ピアジェとヴィゴツキーの学習・教育理論、6) 教科学習の心理学、7) 協同的学習 以上の7つである。
<b>科目における学修の到達目標</b>	この授業では、教職科目としての教育心理学に関する基本的な事項の習得と学校現場における学習とその特質について理解することを目標とする。この授業を通して学校現場における実践的課題は何であるか、その見通しをもつことと、教育の営みとしてどのようなことが求められているのかを教育心理学の視点から理解することを目指す。
<b>講義の方針・計画</b>	<p>第1回：教育心理学の歴史：教育心理学の性格と課題 我が国の教育心理学の歴史の変遷を通して今日の教育心理学の性格とその課題を確認していく</p> <p>第2回：学習と学力：学習観の変遷と教育改革 日本及び諸外国の児童・生徒の学力水準とその推移、わが国の教育改革の動向から学習指導の問題を考察する</p> <p>第3回：発達：その基本と新しい考え方 今日の発達研究が到達した発達理論と発達の条件について、最新の研究成果をもとにしながら考察する</p> <p>第4回：学習：その基本と新しい考え方 教育心理学における学習理論とその変遷を通して学習成立の条件と新しい学習研究の方向を確認する</p> <p>第5回：認知心理学による学習研究 教室における知識・理解研究の基礎になっている認知心理学の研究成果と学校現場への応用可能性を検討する</p> <p>第6回：認知的動機づけ：新しい動機づけの理論 学習者の学習への動機づけのための新しい理論である認知的動機づけの考え方を最新の研究成果から学ぶ</p> <p>第7回：認識の発達：ピアジェの発達・学習理論 認識発達の代表的な理論であるピアジェについて整理し、学習におけるマクロな発達変化を把握していく</p> <p>第8回：発達・学習と教育との連関：ヴィゴツキーの発達・教育理論 発達と教育を分離することなく相互連関の中で論じたヴィゴツキーの発達・学習理論とその重要性を確認する</p> <p>第9回：記憶と問題解決の心理学 人間の記憶を概念的知識とつながる長期記憶を中心に論じることと、最近の問題解決研究をみていく</p> <p>第10回：算数・数学の教科学習 算数・数学の教科学習を学習者が示す学習の特質とその指導のあり方を中心にして心理学の研究成果から学ぶ</p> <p>第11回：理科の教科学習 理科の教科学習を効果的な学習理解のための条件と具体的な学習指導の方法を心理学の研究から学ぶ</p> <p>第12回：国語科の教科学習 国語の教科学習として主に文章読解の過程を実際の授業をもとに論じ、さらに教室の討論の効果をみていく</p> <p>第13回：学習の協同体と文化的実践としての学習 学習を協同的活動としてみていく視点と学習の目標を文化内容の獲得であるとする文化的実践の考えを学ぶ</p> <p>第14回：教室学習：対話と協同的学び 教室の学習を対話による協同的な学びとする理論的、実践的知識を学び、学習改革のための可能性を探る</p> <p>第15回：特別な支援を必要としている児童・生徒の心身の発達及び学習の過程の特徴 特別支援学習を主に学習者の特徴と学習過程の特質について論じ、さらにのぞましい指導のあり方を考える</p>

<b>準備学習(予習・復習)</b>
印刷授業は、教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書の内容全体を2単位で90時間かけて学習することを目安としています。 わからない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。
<b>成績評価の方法およびその基準</b>
次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 試験：100%
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b>
印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。
<b>教科書</b>
書 名：学びと教育の世界—教育心理学の新しい展開— (初版) 著者名：佐藤公治 発行所：あいり出版 ISBN：9784901903752
<b>参考書・参考 Web サイト</b>
書 名：認知心理学からみた読みの世界 初版 著者名：佐藤公治 発行所：北大路書房 書 名：対話の中の学びと成長 初版 著者名：佐藤公治 発行所：金子書房 書 名：教育心理学キーワード 初版 著者名：森 敏昭・秋田喜代美・編著 発行所：有斐閣
<b>関連授業科目</b>
なし
<b>その他</b>
なし
<b>担当教員の実務経験</b>
実務経験なし

# 特別支援教育論

ナンバリング 2 単位

DTP195



担当教員： 五浦 哲也

専 門 特別支援教育、生徒指導、教育相談、カウンセリング、教育心理学  
 出身校等 北海道教育大学大学院教育学研究科学校臨床専攻  
 現 職 北海道情報大学 経営情報学部 教授

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業
<b>授業範囲</b>	教科書の内容すべて
<b>試験期間</b>	シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2022 科目試験時間割」を参照
<b>試験範囲</b>	教科書の内容すべて (持ち込み許可物) 一切自由 (試験に関する注意事項) レポート課題(「学習の仕方」)をよく読み、各章の概要を理解するとともに演習問題を必ずやり、ノートに重要な記述やキーワード及びその意味についてまとめておいてください。
<b>科目の概要</b>	<p>日本の障害児教育は2007年7月、「特殊教育」から「特別支援教育」へと転換されました。即ち、従来の障害種別・程度別の特殊学校(特殊学級)等の場に応じた教育から、障害のある児童・生徒に、教育的ニーズに応じて適切な教育的支援を行うものとなりました。</p> <p>特別支援教育(障害児教育)では、種々の障害の基本的な特性を理解しつつ、障害のある子ども一人一人の困り感に目を向け包括的に個別の障害理解することが重要になります。障害のある子ども理解に応じた適切な支援により、子どもは限りなく豊かに成長・発達する可能性をもっています。学校教育は教師が子どもに教材(教育内容)を使って、意図的・系統的・組織的に働きかけ、子どものもっている諸能力を十分に発達させ、人格の形成を図る営みです。特別支援教育では、教師は個々の子どもの障害・発達に視点をあて、教育的ニーズに応じ、根拠のある多様な指導の手立てを考え実践していくことが求められます。個々の教育的ニーズに応じた教育を実現することで、どの子ども達にとっても効果的な授業となるユニバーサルデザインの授業へと発展していきます。</p> <p>本科目ではこうした点を踏まえながら、特別支援教育に関する理解を図った後、障害種ごとの特性理解と支援の在り方について学習を進めていきます。</p>
<b>科目における学修の到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特別支援教育(意義・教育課程・制度)について理解する。</li> <li>2. 特別な支援を要する子どもの理解と支援に関する基礎的知識を得る。</li> </ol>
<b>講義の方針・計画</b>	<p>第1回：特別支援教育の理念と制度(特別支援教育の理念と仕組み、インクルーシブ教育、制度の理念、母国語や貧困の問題等の教育的ニーズ)</p> <p>第2回：小・中学校における特別支援教育の仕組み(小・中学校における実態、支援体制、個別的教育支援計画及び指導計画)</p> <p>第3回：特別支援学級や通級による指導の仕組みとその実際(特別支援学級と通級による指導の実際、障害種、教育課程)</p> <p>第4回：特別支援学校における教育の仕組みとその実際(障害種、特別支援学校、センター的役割、教育課程)</p> <p>第5回：就学までの支援の仕組みとその実態(障害のある幼児期の心身。心理的特性、早期発見・早期支援、就学に向けての支援)</p> <p>第6回：注意欠陥多動性障害の理解と支援(定義、変遷、発達・心理・生活・学習の特性理解と支援、専門機関との連携)</p> <p>第7回：学習障害の理解と支援(医学的定義、教育的定義、発達・心理・生活・学習の特性理解と支援、専門機関との連携)</p> <p>第8回：自閉症の理解と支援(定義、変遷と診断基準、発達・心理・生活・学習の特性理解と支援、専門機関との連携)</p> <p>第9回：情緒障害の理解と支援(定義、選択性場面緘黙、発達・心理・生活・学習の特性理解と支援、専門機関との連携)</p> <p>第10回：言語障害の理解と支援(構音障害、吃音、発達・心理・生活・学習の特性理解と支援、専門機関との連携)</p> <p>第11回：視覚障害の理解と支援(定義、発達・心理・生活・学習の特性理解と支援、専門機関との連携)</p> <p>第12回：聴覚障害の理解と支援(定義、発達・心理・生活・学習の特性理解と支援、専門機関との連携)</p> <p>第13回：肢体不自由の理解と支援(定義、発達・心理・生活・学習の特性理解と支援、専門機関との連携)</p> <p>第14回：病弱・身体虚弱の理解と支援(定義、発達・心理・生活・学習の特性理解と支援、専門機関との連携)</p> <p>第15回：知的障害の理解と支援(用語と定義、発達・心理・生活・学習の特性理解と支援、専門機関との連携)</p>
<b>準備学習(予習・復習)</b>	印刷授業は、教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書の内容全体を2単位で90時間かけて学習することを目安としています。

わからない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。  
教科書と学習用プリントを活用してノートにまとめながら学習を進めて下さい。

### 成績評価の方法およびその基準

次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 試験：100%

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題へのレポートで、良かったところや重要な視点を記載。

### 教科書

書名：教員をめざすための特別支援教育入門

著者名：大塚 玲 編著

発行所：萌文書林 第2版

ISBN：9784893473271

※初版第3刷には、記載がない部分などがありますので第2版をご使用ください。

### 参考書・参考 Web サイト

特になし

### 関連授業科目

特になし

### その他

特になし

### 担当教員の実務経験

1985年から京都市、北海道で公立小中学校教員の31年間勤務経験がある。教員経験において、特別支援学級、特別支援教育コーディネーター、市町の就学指導委員として8年間の経験がある。教員時代には、常に特別支援教育は、教育の原点と考え、授業づくりや生徒指導、教育相談などすべての教育活動に活かしてきた。教員経験に基づき、特別支援教育論の各講義における法令や理論的な内容が教育現場においてどのように活かしていくことができるかを学生に考えさせていくことに努める。



担当教員： 椿 達

専 門

教育学（教育制度、学校教育、教師教育、進路指導・キャリア教育、数学教育など）

出身校等

上智大学理工学部数学科卒業、筑波大学大学院教育研究科修了

現 職

北海道情報大学 経営情報学部 准教授（教職課程委員長）

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業
<b>授業範囲</b>	
教科書A：第1章～4章、7章、9～14章 教科書B：前文、総則	
<b>試験期間</b>	
シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2022 科目試験時間割」を参照	
<b>試験範囲</b>	
授業範囲すべて (持ち込み許可物) 一切自由 (試験に関する注意事項) 学習プリントの演習課題をすべてやり、ノートにまとめておくこと。	
<b>科目の概要</b>	
教育課程は、学校教育の目的や学校の教育目標を達成するため、教育内容を生徒の心身の発達に応じ、授業時数の関連において総合的に組織した教育計画であり、学校が教育活動を行う上での中心的な役割を担います。従って、自校の教育課程を編成し、それを円滑に実施する基本的な力量はすべての教師に求められるものです。学習指導要領の意義や法制、改訂の歴史、編成・実施・評価の方法などの理解を通して、教育課程経営を学び実際の教育課程・授業計画の編成にかかわって教科・特別活動・総合的な学習の時間の扱いと評価について学びます。	
<b>科目における学修の到達目標</b>	
①教育課程に関する基本的事項および我が国の教育課程行政の仕組みを理解するし、説明することができる。 ②学習指導要領の変遷とその主な特徴を把握し、わが国の教育課程行政の仕組みを理解し、説明することができる。 ③現行の学習指導要領の理念や改訂内容を把握し、これから学校に求められるカリキュラム・マネジメントについて論考し、自分の考えを述べるることができる。	
<b>講義の方針・計画</b>	
第1回 教育課程の意義 第2回 教育課程編成の思想と構造 第3回 近代・現代日本の教育課程の歩み 第4回 教育課程の編成と諸要因 第5回 高等学校学習指導要領と教育課程編成の実際（特色） 第6回 高等学校学習指導要領と教育課程編成の実際（要点） 第7回 高等学校学習指導要領と教育課程編成の実際（改善の方向） 第8回 2008年学習指導要領改訂の経過と特徴 第9回 学校経営・学級経営・生徒指導と教育課程との関連 第10回 各教科と道徳・特別活動・総合的な学習の時間の関連 第11回 教育課程と評価 第12回 カリキュラム開発と学力向上策 第13回 国際学力調査の教育課程改革への影響 第14回 「高等学校 学習指導要領」（平成30年告示）「前文」を読む 第15回 「高等学校 学習指導要領」（平成30年告示）「第1章総則」を読む	
<b>準備学習(予習・復習)</b>	
印刷授業は、教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書の内容全体を2単位で90時間かけて学習することを目安としています。 わからない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。	
<b>成績評価の方法およびその基準</b>	
次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 試験：100%	
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b>	
印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。	
<b>教科書</b>	
書 名：[改訂新版]教職をめざす人のための教育課程論 著者名：古川治ほか編	

<p>発行所：北大路書房  ISBN：9784762830624  書名：高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）  著者名：文部科学省  発行所：「その他」欄を参照</p>
<p><b>参考書・参考Webサイト</b></p>
<p>書名：新しい時代の教育課程〔第4版〕  著者名：田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵  発行所：有斐閣</p> <p>書名：改訂版 教育課程編成論－学校は何を学ぶところか－  著者名：安彦忠彦  発行所：NHK出版</p>
<p><b>関連授業科目</b></p>
<p>「教育方法論と総合的な学習の時間の指導法」と「進路指導」における学習内容が関連しています。</p>
<p><b>その他</b></p>
<p>高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）は、文部科学省のホームページにあるPDFファイルの前文と第1章総則（1から23ページ）をダウンロードしてください。</p>
<p><b>担当教員の実務経験</b></p>
<p>1986年から2015年まで29年間、北海道立高校で教員（2011年から教頭）の経験が在り、高校現場の実態を踏まえた指導方法や技術の指導を通して、教師を目指す学生たちの教職の基盤づくりに資するような講義に努めている。</p>

# 道徳教育の理論と実践

ナンバリング 2 単位

DTP285



担当教員： 日下部 憲一

専 門 道徳教育  
出身校等 北海道大学 理学部

現 職 北海道情報大学・北海学園大学 非常勤講師

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業
<b>授業範囲</b>	教科書と学習用プリントの内容全て
<b>試験期間</b>	シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2022 科目試験時間割」を参照
<b>試験範囲</b>	授業範囲すべて (持ち込み許可物) 一切自由 (試験に関する注意事項) 教科書は必ず持ち込むこと。
<b>科目の概要</b>	道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成等を通して、実践的な指導力を身に付ける。
<b>科目における学修の到達目標</b>	1 道徳の意義や原理等をふまえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。 2 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。
<b>講義の方針・計画</b>	第1回 : 第1章 総説 第2回 : 第2章 道徳教育の目標 第3回 : 第3章 道徳科の内容 第4回 : 第4章 指導計画の作成と内容の取り扱い (指導計画作成上の配慮事項Ⅰ) 第5回 : 第4章 指導計画の作成と内容の取り扱い (指導計画作成上の配慮事項Ⅱ) 第6回 : 第4章 指導計画の作成と内容の取り扱い (道徳科の指導Ⅰ) 第7回 : 第4章 指導計画の作成と内容の取り扱い (道徳科の指導Ⅱ) 第8回 : 第4章 指導計画の作成と内容の取り扱い (指導の配慮事項Ⅰ) 第9回 : 第4章 指導計画の作成と内容の取り扱い (指導の配慮事項Ⅱ) 第10回 : 第4章 指導計画の作成と内容の取り扱い (道徳科の教材に求められる内容の観点) 第11回 : 第5章 道徳科の評価 第12回 : 「私たちの道徳」とその活用 第13回 : 読み物教材と学習指導案の作成Ⅰ (『私たちの道徳』に掲載されている「ネット将棋」「言葉の向こうに」「帰郷」の読み物教材) 第14回 : 読み物教材と学習指導案の作成Ⅱ (『私たちの道徳』に掲載されている「キミばあちゃんの椿」「二人の弟子」「二通の手紙」の読み物教材) 第15回 : 読み物教材と学習指導案の作成Ⅲ (『私たちの道徳』に掲載されている「鳩が飛び立つ日ー石井筆子ー」「一冊のノート」「海と空ー檜野の人々ー」「卒業文集最後の二行」の読み物教材)
<b>準備学習(予習・復習)</b>	印刷授業は、教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書の内容全体を2単位で90時間かけて学習することを目安としています。 わからない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。
<b>成績評価の方法およびその基準</b>	次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 試験：100%
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b>	印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。
<b>教科書</b>	書 名：中学校学習指導要領(平成29年度告示)解説 特別の教科 道徳編(初版) 著者名：文部科学省

<p>発行所：教育出版株式会社  ISBN：9784316300849  書名：私たちの道徳/中学校  著者名：文部科学省  ※以下の URL よりダウンロードしてください。  <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/detail/1344255.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/detail/1344255.htm</a></p>
<p><b>参考書・参考 Web サイト</b></p>
<p>書名：楽しく豊かな「道徳の時間」をつくる  著者名：横山利弘（監修）  発行所：ミネルヴァ書房株式会社</p>
<p><b>関連授業科目</b></p>
<p>なし</p>
<p><b>その他</b></p>
<p>なし</p>
<p><b>担当教員の実務経験</b></p>
<p>道徳の教科科に伴い、小学校では平成 30 年度から、中学校では平成 31 年度から道徳教科書を使った授業が行なわれている。下記の内容について実務経験がある。</p> <p>教科名 平成 30 年度 小学校道徳（東京書籍株式会社）  編集協力委員として、教科書、教師用指導書、図書教材等についての内容検討、執筆及び校閲に当たった。</p> <p>小学校道徳科教科書「新しい道徳」（平成 30 年度及び平成 32 年度発行予定 東京書籍株式会社）  編集協力委員として、教科書、教師用指導書、図書教材等についての内容検討、執筆及び校閲に当たっている。</p> <p>中学校道徳科教科書「新しい道徳」（平成 31 年度及び平成 33 年度発行予定 東京書籍株式会社）  編集協力委員として、教科書、教師用指導書、図書教材等についての内容検討、執筆及び校閲に当たっている。</p> <p>実務経験を活かし、教育現場に求められる道徳教育及びその要となる道徳科の在り方について理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成等に資する授業を行なっていく。</p>

# 教育方法論と総合的な学習の時間の指導法

ナンバリング 2 単位

DTP291



担当教員： 椿 達

専 門

教育学（教育制度、学校教育、教師教育、進路指導・キャリア教育、数学教育など）

出身校等

上智大学理工学部数学科卒業、筑波大学大学院教育研究科修了

現 職

北海道情報大学 経営情報学部 准教授（教職課程委員長）

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業
<b>授業範囲</b>	
教科書A：第1章～5章，教科書B：第1章～5章	
<b>試験期間</b>	
シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2022 科目試験時間割」を参照	
<b>試験範囲</b>	
授業範囲すべて (持ち込み許可物) 一切自由 (試験に関する注意事項) 学習プリントの演習課題をすべてやり、ノートにまとめておくこと。	
<b>科目の概要</b>	
これまでの教育方法・技術と授業に関する基本的な概念を整理し、教育方法と教授学の歴史、近代および現代の教授理論、授業における指導技術と評価、情報機器及び教材の活用など教育メディアの活用方法などについての有意義な考え方と方法・スキルなどを学ぶ。その上で総合的な学習（探究）の時間の意義や創設から現在までの経緯と先進的な実践例や導計画などを通して指導上の留意点や効果的な指導法について学び、教師としての教育（授業）実践の基盤づくりに資するものとする。 ※教職課程カリキュラム（'19）の学生のみ履修することができます。	
<b>科目における学修の到達目標</b>	
①近代現代の教授理論、授業における基本的な指導技術を理解し、教育実践の基盤をつくる。 ②情報機器及び教材の活用方法について学び、その基礎的なスキルを身につける。 ③総合的な学習（探究）の時間の意義や教育課程において果たす役割を資質・能力の育成の視点から理解し、説明することができる。 ④総合的な学習（探究）の時間の指導計画の作成の考え方や方法、評価の考え方について学び、探究的な学習の時間の指導の留意点を理解するとともに、効果的な指導法について考察し、自分の考えを述べることができる。	
<b>講義の方針・計画</b>	
第1回：教育方法・技術に関わる諸概念 第2回：教育方法の理論と歴史（1）：普遍的な教育方法と教授学のめばえ 第3回：教育方法の理論と歴史（2）：近代学校における教授法の実践と理論・新教育運動の教授理論 第4回：教育の現代化と教授理論 第5回：カリキュラム開発（1）：カリキュラム開発とは 第6回：カリキュラム開発（2）：カリキュラムの構造と類型 第7回：教育課程と学習指導要領 第8回：授業における教師の役割や指導技術を考える基本的視点 第9回：学習意欲を引き出す工夫と授業技術 第10回：教育メディアとその活用 第11回：総合的な学習の時間の意義 第12回：戦後の学習指導要領にみる総合的な学習 第13回：総合的な学習（探究）の時間の教育課程と校内体制 第14回：総合的な学習（探究）の時間の指導計画・単元計画 第15回：総合的な学習（探究）の時間の学習指導と評価方法	
<b>準備学習（予習・復習）</b>	
印刷授業は、教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書の内容全体を2単位で90時間かけて学習することを目安としています。 わからない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。	
<b>成績評価の方法およびその基準</b>	
次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 試験：100%	
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法</b>	
印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。	

<b>教科書</b>
<p>書名：三訂版 教育の方法と技術（教職課程シリーズ）・・・教科書 A          著者名：平沢茂（編著）          発行所：図書文化社          ISBN：9784810087017</p> <p>書名：総合的な学習の時間（初版）・・・教科書 B          著書名：森田真樹・篠原正典（編著）          発行所：ミネルヴァ書房          ISBN：9784623081912</p>
<b>参考書・参考 Web サイト</b>
<p>文部科学省のホームページ上にある次の文献を参考にして学習を進めてください。</p> <p>『中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）』          『高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示）』          『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間』          『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間』</p>
<b>関連授業科目</b>
「教育課程論」，「進路指導」，「教科教育法」など
<b>その他</b>
この科目は、教職課程再課程認定申請について、文部科学省における審査の結果、認定通知を受理いたしました。このため、2019 年度の開講が決定しましたので、教科書の購入は可能です。
<b>担当教員の実務経験</b>
1986 年から 2015 年まで 29 年間、北海道立高校で教員（2011 年から教頭）の経験が在り、高校現場の実態を踏まえた指導方法や技術の指導を通して、教師を目指す学生たちの教職の基盤づくりに資するような講義に努めている。

# 特別活動論

ナンバリング 2 単位

DTP286



担当教員： 真鍋 孝徳

専 門 特別活動・生徒指導・カウンセリング  
出身校等 筑波大学大学院（教育学修士）  
現 職 なし

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業
<b>授業範囲</b>	教科書の内容すべて（ただし、小中学校に関する部分は除く）
<b>試験期間</b>	シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2022 科目試験時間割」を参照
<b>試験範囲</b>	教科書 第1章 特別活動の意義と特色（2 ページ～8 ページ） 第3章 学校、学級、学年経営と特別活動（15 ページ～21 ページ） 第IV部 高校の特別活動 第1章～第3章（101 ページ～123 ページ） （持ち込み許可物）一切自由
<b>科目の概要</b>	教育課程は大きく分けると、授業を中心とした教科指導と授業以外の諸活動を含んだ教科外活動に区分されます。この中の教科外活動が「特別活動」に相当します。 高等学校の教育課程の一領域である特別活動は、教育が目指す「人格の完成」と深く関わっています。学校が「人間としての調和のとれた育成」に力点をおくならば、教科などの教育活動だけでなく、特別活動の働きが不可欠となります。 学校教育における特別活動（高等学校）の歩みは、「自由研究」（1947 年）、「特別教育活動」（1951 年）、「各教科以外の教育活動」（1970 年）、「特別活動」（1978 年）というように、名称が変遷してきており、同時にその内容も変化してきました。現在の高等学校の特別活動の内容は、ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事から構成されています。 本科目は高等学校における特別活動の意義や変遷、目標ならびに内容を理解し、指導計画（指導案）、内容ごとの特色、特別活動の評価、週 5 日制と家庭・地域、展望と課題等について、学んでいきます。
<b>科目における学修の到達目標</b>	1. 特別活動の意義と目標（高等学校）を理解する。 2. 特別活動の内容（構成）と内容ごとの特色を覚える。 3. 特別活動における指導原理を学ぶ。 4. ホームルーム活動の機能と役割を把握する。
<b>講義の方針・計画</b>	第1回：第I部 特別活動の理論 第1章 特別活動の意義と特色 第2回：第2章 特別活動の歴史 第3回：第3章 学校、学級、学年経営と特別活動 第4回：第4章 特別活動と家庭・地域の連携 第5回：第5章 特別活動と他の教育活動との連携 第6回：第6章 特別活動と国旗・国歌 第7回：第IV部 高校の特別活動 第1章 ホームルーム活動の指導 第8回：第2章 生徒会活動の指導 第9回：第3章 学校行事の指導 第10回：第4章 高校部活動の指導 第11回：第V部 諸外国の特別活動 第1章 アメリカの特別活動 第12回：第2章 イングランドの特別活動 第13回：第3章 ドイツにおける特別活動 第14回：第4章 フランスの特別活動 第15回：第5章 韓国の特別活動
<b>準備学習（予習・復習）</b>	印刷授業は、教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書の内容全体を2単位で90時間かけて学習することを目安としています。 わからない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。
<b>成績評価の方法およびその基準</b>	次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 試験：100%

<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b>
印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。
<b>教科書</b>
書名：特別活動のフロンティア（初版） 著者名：中谷 彪・臼井 英治・大津 尚志 編 発行所：晃洋書房 版：2008年4月 ISBN：9784771019492
<b>参考書・参考 Web サイト</b>
なし
<b>関連授業科目</b>
なし
<b>その他</b>
新学習指導要領については、文部科学省のホームページを参照すること。
<b>担当教員の実務経験</b>
1989年より高校教諭として、教育現場でホームルーム活動、生徒会活動、学校行事の指導に従事している。特にホームルーム担任や生徒指導部長等の経験より「学校、学級、学年経営と特別活動」について、実際の指導場面の観点より、学生に学んでもらいたいと願っている。



担当教員： 五浦 哲也

専 門 特別支援教育、生徒指導、教育相談、カウンセリング、教育心理学  
 出身校等 北海道教育大学大学院教育学研究科学校臨床専攻  
 現 職 北海道情報大学 経営情報学部 教授

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業
<b>授業範囲</b>	教科書の内容すべて
<b>試験期間</b>	シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2022 科目試験時間割」を参照
<b>試験範囲</b>	授業範囲すべて (持ち込み許可物) 一切自由
<b>科目の概要</b>	<p>いじめ、不登校、自殺、暴力行為、飲酒、喫煙、薬物乱用、性非行、万引き（窃盗）、学級崩壊、授業不成立等児童生徒を取り巻く生徒指導に関わる問題は多岐に及んでおり、教育だけではなく大きな社会全体の問題とも言えます。教員は生徒指導の意義と重要性を理解し、問題行動に組織として迅速かつ効果的な対応ができるだけでなく、生徒指導の機能を生かした学級経営や授業ができる生徒指導の資質と実践力が求められています。</p> <p>生徒指導は、文部科学省の『生徒指導提要』によると「一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動」であると述べています。そのためには、児童生徒の発達段階や実態、特徴、取り巻く環境等の背景など多角的な理解をし、将来を見通し計画的・組織的な指導が必要です。また、生徒指導を行う教員は、教育公務員として法令に遵守し適切に行われることが重要です。さらに、生徒指導は、特定の問題行動を起こした児童生徒に対処的に行うのではなく、全ての児童生徒を対象として、予防・開発的な視点を持ち実態に応じた系統的・計画的な指導が望まれています。</p> <p>本科目ではこうした点を踏まえながら、教育現場における基礎的・基本的な生徒指導の在り方や考え方を理解し、様々な生徒指導問題の実態と対応について学んでいきます。</p>
<b>科目における学修の到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生徒指導の意義と教育における重要性について理解する。</li> <li>2. 様々な問題行動の実態と生徒指導における対応について理解する。</li> </ol>
<b>講義の方針・計画</b>	<p>第1講 第1章 生徒指導の基本（子どもの姿、生徒指導とは、治療的生徒指導・予防的生徒指導・開発的生徒指導、解決志向的な生徒指導、生徒指導でつきたい人間関係、生徒指導の三機能、自己有用感・自己効力感・自尊感情、児童生徒理解、児童生徒理解の方法、児童生徒理解に影響する要因、認めることと叱ること、毅然とした対応）</p> <p>第2講 第2章 生徒指導と教師の姿（手本としての教師、教師のリーダーシップ、教師の自己開示、ジョハリの窓）</p> <p>第3講 第3章 生徒指導体制（生徒指導の校内組織、生徒指導主事、生徒指導年間計画、規律状態のフェーズ、チームとしての学校、初期対応力、アセスメント力）</p> <p>第4講 第4章 子どもに自立を促す生徒指導の手法（コーチング、構成的グループ・エンカウンター、ソーシャル・スキル、アサーション、アンガー・マネジメント）</p> <p>第5講 第5章 生徒指導と法制度（生徒懲戒、体罰、出席停止）</p> <p>第6講 第6章 少年非行（非行の減少、非行の波、今日的非行、対教師暴力、生徒間暴力、対人暴力、器物損壊、ハーシーによる非行モデル、非行へと駆り立てられてしまう子どもに共通すること、非行から立ち直る時、非行少年の分類と少年事件処理手続きの流れ）</p> <p>第7講 第7章 いじめ（どの子にも、どの学校でも起きるいじめ、いじめ防止対策推進法、いじめの定義、具体的ないじめ行為、社会に影響を与えないいじめ事件、人をいじめる時、いじめが見見過される時、いじめの事後対応、いじめ防止策、スウェーデンのいじめ対策）</p> <p>第8講 第8章 生徒指導と教育相談（相談体制、カウンセリング・マインド、教育相談と人間関係力）</p> <p>第9講 第9章 不登校（不登校の歴史と実態、不登校に陥りやすい時期やきっかけ、不登校の子どもへの支援、多様な教育機会、不登校のケース会議、児童生徒理解・教育支援シートの活用）</p> <p>第10講 第10章 生徒指導と学級経営（教室の規律、学級崩壊、崩壊を防ぐ、集団づくり、望ましい学級、男女の仲、教室の開放）</p> <p>第11講 第11章 生徒指導と授業（学習環境、授業時間と保障、ドロップアウト、魅力的な授業、授業に必要な集団指導）</p> <p>第12講 第12章 多様な子どもたち（特別支援教育、貧困状態に置かれている子ども、性的マイノリティー）</p> <p>第13講 第13章 生徒指導とキャリア教育（キャリア教育とは、キャリア教育の必要性、進路指導とキャリア教育、キ</p>

<p>キャリアカウンセリングとは、高等学校の中途退学、発達段階に沿って育む基礎的・汎用的能力、職場体験活動、高等学校卒業程度認定試験</p> <p>第14講 第14章 生徒指導と危機管理（子どもたちの安全、保護者対応、危機対応とメディア対応）</p> <p>第15講 全講義の振り返り、テキスト・ノートから疑問点などの整理及び解決</p>
<p><b>準備学習（予習・復習）</b></p>
<p>印刷授業は、教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書の内容全体を2単位で90時間かけて学習することを目安としています。</p> <p>わからない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。</p> <p>教科書と学習用プリントを見ながらノートにまとめていって下さい。「生徒指導提要」からも関連する内容を見ておくことでより理解が深まります。</p>
<p><b>成績評価の方法およびその基準</b></p>
<p>次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 試験：100%</p>
<p><b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法</b></p>
<p>課題に対し、良かった点や重要な観点を記載。</p>
<p><b>教科書</b></p>
<p>書名：（注）三訂版 入門生徒指導 「いじめ防止対策推進法」「チーム学校」「多様な子どもたちへの対応」まで      著者名：片山紀子      発行所：学事出版      ISBN：9784761924003      （注：2月に「四訂版」が刊行されておりますが、2022年度は「三訂版」を使用しますので、ご注意ください。）</p>
<p><b>参考書・参考Webサイト</b></p>
<p>書名：生徒指導提要      著者名：文部科学省      発行所：教育図書      （文部科学省のホームページからもpdfファイルをダウンロードできます。）</p>
<p><b>関連授業科目</b></p>
<p>「進路指導」、「学校教育相談」、「特別活動論」、「特別支援教育論」、「教育心理学」とも関連をもち、生徒一人ひとりの自己指導力を培い人間形成を図る支援方法を学ぶものです。</p>
<p><b>その他</b></p>
<p>なし</p>
<p><b>担当教員の実務経験</b></p>
<p>1985年から京都市、北海道で31年間、公立小中学校教員の勤務経験がある。教員時代には、常に生徒指導理論や法令に即し、効果的な実践となるよう考え、経験を積んできた。教員経験に基づき、生徒指導の各講義における法令や理論的な内容が教育現場においてどのように結びついているかを学生に考えさせていくことに努める。</p>

# 学校教育相談

ナンバリング 2 単位

DTP290



担当教員： 五浦 哲也

専 門

特別支援教育、生徒指導、教育相談、カウンセリング、教育心理学

出身校等

北海道教育大学大学院教育学研究科学校臨床専攻

現 職

北海道情報大学 経営情報学部 教授

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業
<b>授業範囲</b>	教科書の内容すべて
<b>試験期間</b>	シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2022 科目試験時間割」を参照
<b>試験範囲</b>	教科書の内容すべて (持ち込み許可物) インターネット試験は、一切自由。会場試験は、自筆ノート(印刷物の貼付不可)。 (試験に関する注意事項) 学習プリントを参考に教科書の内容をノートにまとめて持参してください。
<b>科目の概要</b>	教育現場では不登校、いじめ、非行等、多くの教育問題を抱えています。教師は、このような教育課題に対応していく際に、児童生徒の心に寄り添い、発達課題をふまえた児童生徒理解に基づき、成長を促していく教育相談に関する知識・技能を身に付けていることが求められています。また、日常の学級経営や授業や保護者支援においても教育相談の知識・技能は重要となってきます。このようなことをふまえた本科目では、教育相談における知識・技能として、基礎的な理論、アセスメント、カウンセリング基本技法、発達段階について学びます。さらに学校における教育課題は、学校だけでは対応が難しい状況も多々あります。そこで、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、学校外の専門機関との円滑な連携によるチーム支援についても学びます。
<b>科目における学修の到達目標</b>	教職を目指す皆さんが、学校という視点から、教育相談・カウンセリングについて十分理解でき、教師として必要な学校教育相談の基礎理論を自覚的に考察できるようにする。
<b>講義の方針・計画</b>	第1回：学校教育における教育相談の意義と課題 第2回：教育相談に関わる心理学の基礎的な理論 第3回：学校におけるカウンセリング 第4回：カウンセリングの基本技法 第5回：教育相談におけるアセスメント 第6回：幼児期の発達課題と教育相談 第7回：児童期の発達課題と教育相談 第8回：思春期・青年期の発達課題と教育相談 第9回：いじめ問題への対応 第10回：不登校(園)と教育相談 第11回：保護者支援と教育相談 第12回：学級担任が行う教育相談 第13回：学校全体で進める教育相談 第14回：スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの役割 第15回：専門機関との連携
<b>準備学習(予習・復習)</b>	印刷授業は、教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進めてもらいます。教科書全体について関連する内容や教育動向などについて2単位で90時間かけて学習を深めていくことを目安としています。 わからない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。
<b>成績評価の方法およびその基準</b>	次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 試験：100%
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b>	レポートにコメントを入れて返却します。
<b>教科書</b>	書 名：教育相談の理論と方法(初版) 著者名：会沢信彦

編著発行所：北樹出版 発行年：2019年 ISBN：9784779305986
<b>参考書・参考 Web サイト</b>
特になし
<b>関連授業科目</b>
生徒指導、特別支援教育論
<b>その他</b>
特になし
<b>担当教員の実務経験</b>
1985年から京都市、北海道で31年間、公立小中学校教員の勤務経験がある。教員時代には、常に教育相談理論に即し、効果的な教育相談のあり方を模索してきた。教員経験に基づき、学生が教育相談における理論的・実践的な知識を身に付け教育現場に結びつけていくことに努める。



担当教員： 椿 達

専 門 教育学（教育制度、学校教育、教師教育、進路指導・キャリア教育、数学教育など）  
 出身校等 上智大学理工学部数学科卒業、筑波大学大学院教育研究科修了  
 現 職 北海道情報大学 経営情報学部 准教授（教職課程委員長）

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業
<b>授業範囲</b>	
教科書 A の内容 第 1 章 キャリア教育とは何か 第 2 章 高等学校におけるキャリア教育の推進のために 第 3 章 高等学校におけるキャリア教育の実践 教科書 B の内容 第 1 章 キャリア教育って、なに？ 第 2 章 ウソで固めたキャリア教育？	
<b>試験期間</b>	
シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2022 科目試験時間割」を参照	
<b>試験範囲</b>	
授業範囲すべて （持ち込み許可物）一切自由 （試験に関する注意事項）学習プリントの演習課題をすべてやり、ノートにまとめておくこと。	
<b>科目の概要</b>	
わが国のキャリア教育は草創期を経て次のステージに移行していると言われていたが、学校現場ではその認識は希薄であり立ち止まっている感がある。それは教師たちのキャリア教育についての理解や推進の意義・必要性についての認知が不足しており、知識が不十分であることも一つの原因となっている。本科目では、進路指導・キャリア教育の政策の背景（経緯）や理論を理解し、今日のキャリア教育を実践していく意義・必要性、発達の段階にふさわしいキャリア教育実践の在り方について学び、高等学校における進路指導・キャリア教育の実践の改善と充実の方策について考察する。	
<b>科目における学修の到達目標</b>	
①わが国の進路指導・キャリア教育について、歴史的政策的な経緯や理論を踏まえ、学校教育のなかで進路指導・キャリア教育がどのような役割を担い、どのような意義を持つ教育活動であるのか、さらにこれからどのような教育実践が求められていくのかについて理解し、説明することができる。 ②特に高等学校における進路指導・キャリア教育の政策やその批判を通して、キャリア教育の理解を深め、実践的課題は何であるか等の見通しをもち、将来の実践者としての進路指導・キャリア教育の指導基盤をつくり、授業における具体的な構想を述べたり指導案を作成することができる。	
<b>講義の方針・計画</b>	
第 1 回：キャリア教育の定義・政策経緯と背景 第 2 回：キャリア教育の目標 第 3 回：キャリア教育の意義 第 4 回：キャリア教育と進路指導 第 5 回：キャリア教育推進の組織 第 6 回：キャリア教育計画の作成 第 7 回：キャリア教育の連携 第 8 回：インターンシップの在り方 第 9 回：キャリア教育の評価 第 10 回：キャリア教育のウソ（1）キャリア教育って、なに？ 第 11 回：キャリア教育のウソ（2）ウソで固めたキャリア教育？ 第 12 回：キャリア教育のウソ（3）「キャリアプラン」なんて、立てられるの？ 第 13 回：高等学校におけるキャリア発達 第 14 回：系統的なキャリア教育の実践 第 15 回：教科におけるキャリア教育の実践	
<b>準備学習（予習・復習）</b>	
印刷授業は、教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書の内容全体を 2 単位で 90 時間かけて学習することを目安としています。 わからない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。	

<b>成績評価の方法およびその基準</b>
次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 試験：100%
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b>
疑問や質問がある場合にはその都度、回答する。 印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。
<b>教科書</b>
書 名：高等学校キャリア教育の手引き（初版） …教科書 A 著者名：文部科学省 発行所：教育出版 ISBN：9784316300580 書 名：キャリア教育のウソ（ちくまプリマー新書 197）（初版） …教科書 B 著者名：児美川孝一郎 発行所：筑摩書房 ISBN：9784480688996
<b>参考書・参考 Web サイト</b>
なし
<b>関連授業科目</b>
「教育課程論」，「教育の方法と技術」または「教育方法論と総合的な学習の時間の指導法」、「教科教育法」など
<b>その他</b>
なし
<b>担当教員の実務経験</b>
1986年から2015年まで29年間、北海道立高校で教員（2011年から教頭）の経験が在り、高校現場の実態を踏まえた進路指導・キャリア教育を通して、教師を目指す学生たちの教職の基盤づくりに資するような講義に努めている。

# 教育実習 I

ナンバリング 1 単位

DTP391



担当教員： 椿 達

専 門  
出身校等  
現 職

教育学（教育制度、学校教育、教師教育、進路指導・キャリア教育、数学教育など）  
上智大学理工学部数学科卒業、筑波大学大学院教育研究科修了  
北海道情報大学 経営情報学部 准教授（教職課程委員長）



担当教員： 五浦 哲也

専 門  
出身校等  
現 職

特別支援教育、生徒指導、教育相談、カウンセリング、教育心理学  
北海道教育大学大学院教育学研究科学校臨床専攻  
北海道情報大学 経営情報学部 教授



担当教員： 渡邊 仁

専 門  
出身校等  
現 職

教育心理学、発達心理学  
北海道大学  
北海道情報大学経営情報学部 講師



担当教員： 別所 正一

専 門  
出身校等  
現 職

教育実習 I・II・III 教職実践演習（中・高） 商業科教育法 I・II  
札幌大学  
特任講師

<b>授業形態</b>	前期面接授業・後期面接授業※「教育実習 I」の「事前指導」は教材の視聴にて行う
<b>授業範囲</b>	教育実習の事前・事後の指導内容
<b>試験期間</b>	試験実施なし
<b>試験範囲</b>	教育実習の事前・事後の指導内容
<b>科目の概要</b>	<p>「教育実習」は、専門職としての教師を志す学生が、大学で学んだ専門分野と教職に関する知識技能などを基礎として、学校での教育活動を実際に体験するために、設けられているものです。</p> <p>従って、「教育実習」は、教職課程においては、課程の全体を集約する科目として位置づけられ、必修科目として通常は4年次に履修することになっています。全体の構成は、「教育実習 I」（1単位）と「教育実習 II」（2単位：中高共通）と「教育実習 III」（中学校の教育実習で2単位）の3つからなっています。</p> <p>「教育実習 I」は、学校で行う「教育実習」（訪問実習）を、より充実・発展させることをねらいとしているものです。内容は、訪問実習の準備をするための「事前指導」と教育実習の成果を定着させ、発展させるための「事後指導」の二つに分かれています。</p>
<b>科目における学修の到達目標</b>	<p>実際の教育活動に参加するにあたり、既習の個々の知識や技能を統合した実践的な指導力の向上と、新たな研究課題（学習課題）の発見、教職に対する適性の有無の確認などを行う。</p>
<b>講義の方針・計画</b>	<p>1 事前指導</p> <p>「事前指導」は、訪問実習の直前に行う指導だけを意味するものではなく、実習校決定の前後における一連の指導をも含むものですが、教材では実習の直前に行う「事前指導」に限定して行います。主な内容は次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「教育実習」の意義・目的、実習の概要</li> <li>・「教育実習」の一般的な心構えと具体的な準備</li> <li>・「教育実習日誌」の書き方 ※教材視聴後レポート提出</li> </ul>

<p>レポート課題（事前指導）  形式 A4版 40×30行  内容 (1)、(2)について、それぞれ1200字程度  (1)授業実習にあたって心得ておくべきことについて書きなさい。（1200字程度）  (2)教育実習に向かうにあたって、自分にとって、これから解決すべき課題を書きなさい。（1200字程度）</p> <p>教育実習Ⅰ（事前指導）eテストの実施  試験1  カテゴリⅠ（教育実習の意義と基礎知識）とカテゴリⅡ（教育実習日誌の作成と実習内容）は、全問正解になるまで、繰り返して実施してください。  試験2  カテゴリⅢ（教職教養）とカテゴリⅣ（教育時事）は、これまでの講義で学んできたことの確認や教員採用試験（教職教養）に向けての学習に活用してください。1回は必ず受験し、その後は何回も受験することができます（問題はランダムに分野ごとに5問出題）。</p> <p>※ eテストの受講の有無は、こちらで確認します。</p> <p>2 事後指導  「事後指導」の授業の内容は、次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習内容を整理して「教育実習レポート」（A4版40字×30行、3枚程度）にまとめる。</li> </ul> <p>※実習終了後、2週間以内に、「教育実習日誌」と「教育実習レポート」を大学に提出すること</p>
<p><b>準備学習(予習・復習)</b></p> <p>事前指導のレポート作成のため、指定する映像を視聴し、教育実習を受講するための準備を行う。「教育実習Ⅰ事前指導 eテスト」を実施し、教育実習の心構えやマナーなどの基礎知識を自己チェックすることを通して、教育実習生としての心構えや態度をしっかりと確立し、自覚を深める。</p>
<p><b>成績評価の方法およびその基準</b></p> <p>次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 レポート：100%</p>
<p><b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b></p> <p>教育実習について、疑問や質問がある場合にはその都度、回答する。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>書名：教育実習の手引（第7版）  著者名：北海道私立大学・短期大学教職課程研究連絡協議会編  発行所：学術図書出版社  ISBN：9784780607772</p> <p>書名：教育実習日誌（第4版）  著者名：北海道私立大学・短期大学教職課程研究連絡協議会編  発行所：学術図書出版社  ISBN：9784780607789</p>
<p><b>参考書・参考Webサイト</b></p> <p>書名：「テキスト 中等教育実習『事前・事後指導』－教育実習で成長するために－」  著者名：土井進  発行所：ジダイ社</p> <p>書名：「高等学校教育実習ハンドブック」  著者名：田代武博・岡野亜希子  発行所：風間書房</p> <p>書名：「新編教育実習の常識」  著者名：教育実習を考える会編  発行所：蒼丘書林</p>
<p><b>関連授業科目</b></p> <p>教育実習Ⅱ</p>
<p><b>その他</b></p> <p>特になし</p>
<p><b>担当教員の実務経験</b></p>

椿 達

1986年から2015年まで29年間、北海道立高校で数学の教員（2011年から教頭）の経験が在り、教師を目指す学生たちの教職の土台となるような実践的な授業づくりに努めている。

五浦哲也

1985年から31年間、京都市及び北海道の公立小中学校で教員経験がある。教務部や研修部及び教育実習生の担当経験を活かし、教育実習を通して学生が主体的かつ深い学びができるよう実践に即した授業づくりに努めている。

# 教育実習 II

ナンバリング 2 単位

DTP392



担当教員： 椿 達

専 門  
出身校等  
現 職

教育学（教育制度、学校教育、教師教育、進路指導・キャリア教育、数学教育など）  
上智大学理工学部数学科卒業、筑波大学大学院教育研究科修了  
北海道情報大学 経営情報学部 准教授（教職課程委員長）



担当教員： 五浦 哲也

専 門  
出身校等  
現 職

特別支援教育、生徒指導、教育相談、カウンセリング、教育心理学  
北海道教育大学大学院教育学研究科学校臨床専攻  
北海道情報大学 経営情報学部 教授



担当教員： 渡邊 仁

専 門  
出身校等  
現 職

教育心理学、発達心理学  
北海道大学  
北海道情報大学経営情報学部 講師



担当教員： 別所 正一

専 門  
出身校等  
現 職

教育実習 I・II・III 教職実践演習（中・高） 商業科教育法 I・II  
札幌大学  
特任講師

<b>授業形態</b>	前期面接授業・後期面接授業
<b>授業範囲</b>	
教育実習の体験	
<b>試験期間</b>	
試験実施なし	
<b>試験範囲</b>	
教育実習の体験	
<b>科目の概要</b>	<p>「教育実習」は、専門職としての教師を志す学生が、大学で学んだ専門分野と教職に関する知識技能などを基礎として、学校での教育活動を実際に体験するために、設けられているものです。</p> <p>従って、「教育実習」は、教職課程においては、課程の全体を集約する科目として位置づけられ、必修科目として通常は4年次に履修することになっています。全体の構成は、「教育実習 I」（1単位）と「教育実習 II」（2単位：中高共通）と「教育実習 III」（中学校の教育実習を実施する場合で2単位）の3つからなっています。</p> <p>「教育実習 II」は、「教育実習 I」の「事前指導」が終了した後で、出身校などの実習校において、実際に教育活動に参加して行う実習です。期間は2～3週間です。</p>
<b>科目における学修の到達目標</b>	<p>実際の教育活動に参加するにあたり、既習の個々の知識や技能を統合した実践的な指導力の向上と、新たな研究課題（学習課題）の発見、教職に対する適性の有無の確認などを行う</p>
<b>講義の方針・計画</b>	<p>「教育実習」は、実習校が作成した指導計画に基づいて進められます。その間、校長先生をはじめ多くの先生から指導を受けることになります。特に、専門教科やホームルーム経営については、担当する先生から全期間を通じて指導を受けることになります。</p> <p>実習する内容は、学習指導・生徒指導・ホームルーム経営・教務事務・勤務のあり方・校務分掌業務・部活動指導等多岐にわたりますが、いずれも実際の教育活動に即して指導を受けることになります。</p> <p>実習の形態には、実習校の先生方の教育活動を見て学ぶ「観察実習」、指導される先生の指示を受けて、教育活動の一部を担当する「参加実習」、指導される先生の手を離れて、自らの創意工夫と責任で行う研究授業などの「応用実習」等があります。その他必要に応じて講義・説明なども入ります。</p> <p>教育実習を通じて、学校の教育活動の全体の仕組みや教師の心・仕事の内容、教えることの難しさ、生徒と心が通じ合った時の喜びなど、いろいろなことを体験することになります。自分の人間的あるいは学問的な未熟さ、湧き出てくる教職へ</p>

<p>の新たな意欲、職業であることの厳しさ等も実感することになります。これらは、いずれもかけがえのない貴重な体験であります。</p> <p>教育実習で得る多くの経験は、実習校の多くの方々からの善意からの贈り物です。このことを自覚し、学ぶものとしての謙虚な心を持ち、何事にも積極的に取り組む心構えが求められます。</p>
<p><b>準備学習(予習・復習)</b></p>
<p>教育実習 I の事前指導で学習した映像等を視聴し、教育実習の準備をする。</p>
<p><b>成績評価の方法およびその基準</b></p>
<p>次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 その他：100% [ 教育実習日誌, 実習高等学校からの出席簿・評価表。「教育実習 I」と関連させ、総合的に評価します。 ]</p>
<p><b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b></p>
<p>教育実習について、疑問や質問がある場合にはその都度、回答する。</p>
<p><b>教科書</b></p>
<p>「教育実習 I」に同じ。</p>
<p><b>参考書・参考 Web サイト</b></p>
<p>「教育実習 I」に同じ。</p>
<p><b>関連授業科目</b></p>
<p>教育実習 I</p>
<p><b>その他</b></p>
<p>特になし</p>
<p><b>担当教員の実務経験</b></p>
<p>椿 達 1986 年から 2015 年まで 29 年間、北海道立高校で数学の教員（2011 年から教頭）の経験が在り、教師を目指す学生たちの教職の土台となるような実践的な授業づくりに努めている。</p> <p>五浦哲也 1985 年から 31 年間、京都市及び北海道の公立小中学校で教員経験がある。教務部や研修部及び教育実習生の担当経験を活かし、教育実習を通して学生が主体的かつ深い学びができるよう実践に即した授業づくりに努めている。</p>

# 教育実習 III

ナンバリング 2 単位

DTP393



担当教員： 椿 達

専 門

教育学（教育制度、学校教育、教師教育、進路指導・キャリア教育、数学教育など）

出身校等

上智大学理工学部数学科卒業、筑波大学大学院教育研究科修了

現 職

北海道情報大学 経営情報学部 准教授（教職課程委員長）



担当教員： 五浦 哲也

専 門

特別支援教育、生徒指導、教育相談、カウンセリング、教育心理学

出身校等

北海道教育大学大学院教育学研究科学校臨床専攻

現 職

北海道情報大学 経営情報学部 教授



担当教員： 渡邊 仁

専 門

教育心理学、発達心理学

出身校等

北海道大学

現 職

北海道情報大学経営情報学部 講師



担当教員： 別所 正一

専 門

教育実習 I・II・III 教職実践演習（中・高） 商業科教育法 I・II

出身校等

札幌大学

現 職

特任講師

<b>授業形態</b>	前期面接授業・後期面接授業
<b>授業範囲</b>	
教育実習の体験	
<b>試験期間</b>	
試験実施なし	
<b>試験範囲</b>	
教育実習の体験	
<b>科目の概要</b>	
<p>「教育実習」は、専門職としての教師を志す学生が、大学で学んだ専門分野と教職に関する知識技能などを基礎として、学校での教育活動を実際に体験するために、設けられているものです。</p> <p>従って、「教育実習」は、教職課程においては、課程の全体を集約する科目として位置づけられ、必修科目として通常は4年次に履修することになっています。全体の構成は、「教育実習 I」（1単位）と「教育実習 II」（2単位：中高共通）と「教育実習 III」（中学校の教育実習で2単位）の3つからなっています。</p> <p>「教育実習 III」は、「教育実習 I」の「事前指導」が終了した後で、出身校などの実習校において、実際に教育活動に参加して行う実習です。期間は3週間です。</p>	
<b>科目における学修の到達目標</b>	
<p>実際の教育活動に参加するにあたり、既習の個々の知識や技能を統合した実践的な指導力の向上と、新たな研究課題（学習課題）の発見、教職に対する適性の有無の確認などを行う。</p>	
<b>講義の方針・計画</b>	
<p>「教育実習」は、実習校が作成した指導計画に基づいて進められます。その間、校長先生をはじめ多くの先生から指導を受けることになります。特に、専門教科や学級経営については、担当する先生から全期間を通じて指導を受けることになります。</p> <p>実習する内容は、学習指導・生徒指導・学級経営・教務事務・勤務のあり方・校務分掌業務・部活動指導等多岐にわたりますが、いずれも実際の教育活動に即して指導を受けることになります。</p> <p>実習の形態には、実習校の先生方の教育活動を見て学ぶ「観察実習」、指導される先生の指示を受けて、教育活動の一部を担当する「参加実習」、指導される先生の手を離れて、自らの創意工夫と責任で行う研究授業などの「応用実習」等があります。その他必要に応じて講義・説明なども入ります。</p> <p>教育実習を通じて、学校の教育活動の全体の仕組みや教師の心・仕事の内容、教えることの難しさ、生徒と心が通じ合った時の喜びなど、いろいろなことを体験することになります。自分の人間的あるいは学問的な未熟さ、湧き出てくる教職へ</p>	

<p>の新たな意欲、職業であることの厳しさ等も実感することになります。これらは、いずれもかけがえのない貴重な体験であります。</p> <p>教育実習で得る多くの経験は、実習校の多くの方々からの善意からの贈り物です。このことを自覚し、学ぶものとしての謙虚な心を持ち、何事にも積極的に取り組む心構えが求められます。</p>
<p><b>準備学習(予習・復習)</b></p>
<p>教育実習 I の事前指導で学習した映像等を視聴し、教育実習の準備をする。</p>
<p><b>成績評価の方法およびその基準</b></p>
<p>次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 その他：100% [ 教育実習日誌, 教育実習校からの出席簿・評価表。「教育実習 I」と関連させ、総合的に評価します。 ]</p>
<p><b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b></p>
<p>教育実習について、疑問や質問がある場合にはその都度、回答する。</p>
<p><b>教科書</b></p>
<p>「教育実習 I」に同じ。</p>
<p><b>参考書・参考 Web サイト</b></p>
<p>「教育実習 I」に同じ。</p>
<p><b>関連授業科目</b></p>
<p>教育実習 I</p>
<p><b>その他</b></p>
<p>特になし</p>
<p><b>担当教員の実務経験</b></p>
<p>椿 達 1986 年から 2015 年まで 29 年間、北海道立高校で数学の教員（2011 年から教頭）の経験が在り、教師を目指す学生たちの教職の土台となるような実践的な授業づくりに努めている。</p> <p>五浦哲也 1985 年から 31 年間、京都市及び北海道の公立小中学校で教員経験がある。教務部や研修部及び教育実習生の担当経験を活かし、教育実習を通して学生が主体的かつ深い学びができるよう実践に即した授業づくりに努めている。</p>

# 教職実践演習(中・高)

ナンバリング 2 単位

DTP394



担当教員： 椿 達

専 門  
出身校等  
現 職

教育学（教育制度、学校教育、教師教育、進路指導・キャリア教育、数学教育など）  
上智大学理工学部数学科卒業、筑波大学大学院教育研究科修了  
北海道情報大学 経営情報学部 准教授（教職課程委員長）



担当教員： 五浦 哲也

専 門  
出身校等  
現 職

特別支援教育、生徒指導、教育相談、カウンセリング、教育心理学  
北海道教育大学大学院教育学研究科学校臨床専攻  
北海道情報大学 経営情報学部 教授



担当教員： 渡邊 仁

専 門  
出身校等  
現 職

教育心理学、発達心理学  
北海道大学  
北海道情報大学経営情報学部 講師



担当教員： 別所 正一

専 門  
出身校等  
現 職

教育実習 I・II・III 教職実践演習（中・高） 商業科教育法 I・II  
札幌大学  
特任講師

<b>授業形態</b>	後期面接授業
<b>授業範囲</b>	
学習用プリントの内容すべて	
<b>試験期間</b>	
試験実施なし	
<b>試験範囲</b>	
学習用プリントの内容すべて	
<b>科目の概要</b>	
<p>1. 本科目は、教員として必要な資質・能力の最終的な形成・修得と本人及び教員による確認を目的とするものであり、教職課程のいわば集大成とでもいうべき科目である。</p> <p>2. 上記の目的を果たすために、本科目では、自分や他の学生の教育実習での経験に対するとらえ返しと検討を行ない、それを踏まえた上で、教員の職務や責任、生徒理解・指導と学級経営について考察するとともに、学習指導（ICT の活用を含む）にまつわる実践的指導力の向上の実現と今後の課題の析出に努めることとする。</p> <p>3. 授業展開について（「教科に関する科目」の担当教員にも便宜、指導を仰ぐ場合がある）担当教員 4 名の各自が年に数回同一内容の授業をスクーリング形式で行う。</p>	
<b>科目における学修の到達目標</b>	
<p>教員として、求められる資質能力（教員としての責任感や教育的愛情、社会性・対人関係能力、生徒理解・指導や学級経営にまつわる実践的指導力、学習指導にまつわる実践的指導力）のより一層の向上を図り、教職に関する適性の獲得を目指す。</p> <p>教職課程の履修履歴を履修カルテで振り返り、将来教員になる上で、自分にとって何が課題であるかをあらためて自覚する。</p>	
<b>講義の方針・計画</b>	
<p>第 1 回：教職課程に関する学習履歴全般の振り返りと自己課題の検討</p> <p>第 2 回：教員の職務（組織運営を含む）・責任に関する講義（全体）</p> <p>第 3 回：教員の職務（組織運営を含む）・責任に関する討論（全体）</p> <p>第 4 回：生徒理解・指導と学級経営に関する講義（全体）</p> <p>第 5 回：生徒理解・指導と学級経営に関する討論（全体）</p> <p>第 6 回：教科の指導に関する講義（全体）</p>	

<p>第7回：ICT活用の理論と実践に関する討論（全体）  第8回：模擬授業（LHR 進路・健康・安全）実演と検討会（グループ別）  第9回：模擬授業（LHR 学校行事）実演と検討会（グループ別）  第10回：模擬授業（総合的な学習／探究の時間）実演と検討会（グループ別）  第11回：模擬授業（数学）実演と検討会（グループ別）  第12回：模擬授業（情報）実演と検討会（グループ別）  第13回：模擬授業（商業）実演と検討会（グループ別）  第14回：模擬授業（研究授業）実演と検討会（グループ別）  第15回：まとめ（グループ別）</p>
<p><b>準備学習（予習・復習）</b></p>
<p>教育実習で使用した教材や指導案を、実習校で指導された内容で見直し、模擬授業を実施する準備を行う。</p>
<p><b>成績評価の方法およびその基準</b></p>
<p>次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 その他：100%[討論への参加の状況、模擬授業の実演状況をもとに総合的に評価する]</p>
<p><b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法</b></p>
<p>スクーリング（対面授業）で、その都度、コメントする。</p>
<p><b>教科書</b></p>
<p>特に指定しない</p>
<p><b>参考書・参考Webサイト</b></p>
<p>参考書は特に指定しない。</p>
<p><b>関連授業科目</b></p>
<p>教育実習Ⅱ・教育実習Ⅲ</p>
<p><b>その他</b></p>
<p>参考資料として、教育実習時に使用した教育実習日誌や指導案、教材を見直し、模擬授業を実施するための資料を準備し、授業実施2週間前を目処に提出する。</p>
<p><b>担当教員の実務経験</b></p>
<p>椿 達  1986年から2015年まで29年間、北海道立高校で数学の教員（2011年から教頭）の経験が在り、教師を目指す学生たちの教職の土台となるような実践的な授業づくりに努めている。</p> <p>五浦哲也  1985年から31年間、京都市及び北海道の公立小中学校で教員経験がある。教務部や研修部及び教育実習生の担当経験を活かし、教育実習を通して学生が主体的かつ深い学びができるよう実践に即した授業づくりに努めている。</p>

# 教育の方法と技術

ナンバリング 2 単位

DTP287



担当教員： 椿 達

専 門

教育学（教育制度、学校教育、教師教育、進路指導・キャリア教育、数学教育など）

出身校等

上智大学理工学部数学科卒業、筑波大学大学院教育研究科修了

現 職

北海道情報大学 経営情報学部 准教授（教職課程委員長）

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業
<b>授業範囲</b>	
第1～7章	
<b>試験期間</b>	
シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2022 科目試験時間割」を参照	
<b>試験範囲</b>	
授業範囲すべて (持ち込み許可) 自筆ノート(教科書のコピーの添付不可) (試験に関する注意事項) 学習プリントの演習課題をすべてやり、ノートにまとめておくこと。	
<b>科目の概要</b>	
教育を社会的なマクロな視点からみると、人類が蓄積してきた文化を次の世代に伝える作用といえるし、個人的なミクロな視点からみると、誕生した子どもを親から自立・自律した「人」へと導く働きかけと考えられる。学校の教育活動では、教授者・学習者、それに両者の間に介在する文化的な内容があり、それらの要件を枠付ける物的な環境条件（施設・設備など）や時間が関与している。その相互作用の過程で、より効果的な手段・方法を見出そうとするのが「教育の方法と技術」である。 ※教職課程カリキュラム（'17）以前の学生のみ履修することができます。	
<b>科目における学修の到達目標</b>	
学校教育に対する社会からのニーズの増加と複雑化により、教師が担うべきだとされる役割や責任は、ますます拡大する傾向にある。しかし、教師が「教育専門職（プロフェッション）」としてエネルギーと時間を最優先で傾注しなければならぬ仕事が「授業」であることはいままでのない。本科目では、これまでの教育方法・技術と授業に関する基本的な概念を整理し、教育方法と教授学の歴史、近代および現代の教授理論、カリキュラム（教育課程を含む）とその開発、授業における指導技術と学習意欲の向上・評価、教育メディアの発展と活用、教育における評価と改善などについての有意義な考え方や方法・スキルなどを学び、それらの教師の授業実践の基盤づくりに資する知識や技術について説明することができること、さらに自分の考えを述べることを目標とする。	
<b>講義の方針・計画</b>	
第1回：教育の方法・技術と授業の諸概念 第2回：教授学と教授法の歴史 第3回：新教育運動の教授理論 第4回：教育の現代化と教授理論 第5回：カリキュラムの概念と開発 第6回：カリキュラムの構造と類型 第7回：教育課程と学習指導要領 第8回：教師の役割・責任と授業における指導技術 第9回：学習意欲を引き出す授業方法・技術と学習評価 第10回：教育メディアと教育メディア活用の理論 第11回：各種教育メディアとICT活用の進展 第12回：教授組織のあり方 第13回：学習組織の形態 第14回：教育評価とは何か 第15回：授業のための教育評価	
<b>準備学習(予習・復習)</b>	
印刷授業は、教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書の内容全体を2単位で90時間かけて学習することを目安としています。 わからない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。	
<b>成績評価の方法およびその基準</b>	
次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 試験：100%	
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b>	

<p>疑問や質問がある場合にはその都度、回答する。 印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。</p>
<p><b>教科書</b></p>
<p>書名：三訂版 教育の方法と技術（教職課程シリーズ） 著者名：平沢茂編著 発行所：(株)図書文化社 ISBN：9784810087017</p>
<p><b>参考書・参考 Web サイト</b></p>
<p>書名：教育方法学の実践研究 著者名：古藤泰弘 発行所：教育出版</p>
<p><b>関連授業科目</b></p>
<p>「教育課程論」，「進路指導」，「教科教育法」など</p>
<p><b>その他</b></p>
<p>なし</p>
<p><b>担当教員の実務経験</b></p>
<p>1986年から2015年まで29年間、北海道立高校で教員（2011年から教頭）の経験が在り、高校現場の実態を踏まえた指導方法や技術の指導を通して、教師を目指す学生たちの教職の基盤づくりに資するような講義に努めている。</p>